

5 興味関心を持つための取り組み（記述回答） 全回答

交流会
福祉の世界との関わりができる機会が増えれば良いと思う
・40年後の日本の話をする。平均年齢が～ ・利用者さんと接する機会を多く持つ。ボランティア等、地域活動 ・高齢者障害者をいたわる気持ちを持ってもらう。道徳など学校教育の現場から見直し
福祉の世界に興味を持ってもらう為には、現場との交流が必要だと思う。高校生だと、あまり福祉にふれ合う機会はないので。施設で何かを発表する機会や、学園祭での交流が良いのでは？
福祉＝大変というイメージが強い為、そのイメージを変化させる ・清潔感のある職場、職員と利用者の笑顔が多い職場を増やす ・何かの取り組み（利用者をできる限り地域へなど）職場全体で一つの方向に向かっていくという姿勢を見せる ・最後は給与アップ
授業の一環としてボランティアに参加する機会を増やしていったら良いと思います。
交流を広げる
実際に現場で働いている方から、仕事に対するやりがいや、おもしろさを伝える機会を設ける。
特別な世界ではなく、身近にある世界である事も伝えていく。
現場で働いている人たちが、やりがいを感じていること。仕事としての楽しさ、おもしろさを伝えていくこと。
・ボランティア部の学生の受け入れと、文化祭等（発表する場）への協力 ・サポーター養成の開催
・賃金を上げる ・授業に取り入れる
・労働負担に見合う賃金体系の確立 ・財源の確保（消費税→福祉税）
介護をする技術をみんなで体験し合ったり、様々な福祉用具を実際に使ってみて、どのような役割を果たしているかなどを考えてみたりして、関心を持ってもらう。
賃金の見直し
福祉とは何かを良く知ってもらうために、学校での講演会を行う。現場の声を聞いてもらう場を設ける。
・ボランティア（様々な人間とのふれあい） ・自分から、その人を感じ、行動に移す
障害者、高齢者との交流の場を作る。施設見学者が興味関心を持てる様な職場（利用者、従業員の雰囲気）
行事や旅行等の一緒に楽しめるようなボランティアを広めることや、少しでも接する機会を増やす。各地域、事業所がもっと活動内容、事業の内容を話すことができるような取り組み。バリアフリーの住宅、介護付きのマンション等の見学会等、小さなことから楽しんで興味を持てる取り組み。
実習をたくさんして、ボランティアなどを体験して欲しいと思う。仕事につく前だからこそ、いろいろな分野を経験できるので（障害、老人など）
経験がないと、興味、関心を持ってないので、交流が必要。
学生のうちに一度福祉の現場をみてもらい、人と人のやりとり、交流等をみてもらう
介護ををすると言うのは、大変辛い汚いと言うイメージがあると思いますが、実際介護の仕事をしてみると、もちろん大変な事もあるし、辛い時もあります。それだけではなく、楽しい事もあります。ぜひ、介護の仕事に興味を持ってみて下さい。
ギャラの向上、これが大事だと思う。

学校の授業するなど、短期授業で取り入れる。
気持ちの問題が大きいと思う。楽しい事、うれしい事の中で、大変な事があると思えるような気持ちになれる といいと思う。就労体験ではなく、イベントなどで交流するなど、楽しい事を先行させるとよいと思う。
ボランティアの機会を増やす（授業で取り入れるなど）
高齢者と関わる機会をもっと増やす。
年間最低10時間の介護の授業（認知症の方の対応法、介護技術の実習等）を設ける。
現役の介護員、医療関係（機関）の方々と、高校生が話し合える機会（しゃべり場）をまず設けること から始まると思います。人数が少なからうと、その輪は必ず広まっていくものと自分は信じます。
学校側、施設側ともに、体験学習のような機会をもっと増やしていく事、良い面だけではなく、全ての面を見 せ、どのようなものなのかを詳しく見せていく事も大事だと思う。
賃金（給料）、労働状況、人間関係含め、私、他の職種で働いてきましたが、離職原因の3つのうち、 1つも良いとは思いません。これでは若い人に働いて…と言っても、無理かと思います。（ある意味、コンビニ の高校バイトの給料より悪いと思います）
国に福祉に対する意識をもっと高くもってほしい。労働条件を改善をすることにつながると思う。
待遇を良くする
福祉業界の待遇改善。従事者の体験談で、やりがいを感じた事を伝える。
・給与のアップ ・現場を見てもらう機会作る
・「障害者はかわいそう」とか、理由もなく「がんばっている」みたいなTVの報道を止めて、人間としての「1人 の人」として、子供に教える。
・私たちと同じように怒ったり、泣いたり、笑ったり、嫉妬したりもする。普通の1人の人間であることを教えて いく。
・だから変に怖がることも、特別視することもせず接することで、良いこと教える。
「総合学習」の時間などにでも、ボランティア（何でも良いと思います。除雪とか）等を通して、交流する機 会は必要です。核家族化が進んだ中で、お年寄りと交流する機会は少なくなっているのではないのでしょうか？ おそらく、高校生はもとより、一般的に言えると思いますが、世間は介護を「誰にでも出来る仕事」というイメ ージが強い様です。それ自体を支えるのが、もっとも有効だと考えますが、それがむずかしいんですね…（個 人的には学力はともかくとして、こんなにも個人のもともとの資質を問われる仕事は無いと感じています）
もっと地域との交流を図り、介護を知っていただく。
体力が必要ではあるが、とてもやりがいのある仕事であることを伝える。
・活動を広める ・偏見をもたないよう、情報提供
現場体験
・子ども教育にもっとお金をかける（いろいろな経験を通して、視野をひろくもてるようにする）
・今働いている大人達が、一生懸命働く姿をみる機会を増やす
・いろいろな職種があることを知る機会を増やす
興味があっても、向き不向きがあるから、何ともいえない。大変だと思うが事が、イメージで多すぎるので、イメ ージを変えていかないといけない。現実イメージよりも大変だったから。

福祉に興味を持ってもらえる様な体験（例・施設見学（夏祭り etc. . . ））
核家族化により、日頃の生活での縦の関わりがない。福祉科なるものを存在させ、日頃から、地域社会でも高齢者との関わり、福祉の職場での実習、ボランティア、研修などして行く
高校生だけにではなく、小、中学校の早期の段階で、道德などの時間を使って、障害者についてのカリキュラムが必要だと思います。
アピールをする以前に、給与等の待遇を変えない限り、離職が多く、支援に繋がらないと思います。
実践的（仕事につく前に、働く）に、もしくは、もっと知ってもらえる様に働きかけ、熱意、感動を知ってもらう。
現在のところは、給与は安いし、仕事がハードだということでは取り上げられていない。事実そういう面があり、理想や自己犠牲でやっていけるほど甘いものではない。夢物語を語る前に、今働いている人に、仕事に見合った収入が得られるようにし、もっとフォローしてもらえるようなものを作った上で、現在働いている人間がすすめられるようになればいいと思う。そういう所での実務研修であればいい。
ちゃんと福祉業務の責任の重さを、初めのうちに教えておく。
給与水準
社会的偏見をとりのぞく。人のためとは思わず、自己のため、自分が周りに支えられていると思う気持ちで接していく。
各施設の見学に積極的に行き、実際にどんな方々がいる（生活している）のか、知ってほしいと思う。
ボランティア等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生の授業にある、道德や総合の時間に福祉施設の見学を取り入れる。</li> <li>・賃金を上げる</li> <li>・メディアは福祉従事者の不利面（特に経済面）を取り上げがちだが、もっと良い面もアピールできるようにする（利用者の声など）</li> <li>・熟年層が転職してきた場合に、彼らをもっと大切にする（大人が希望を持って働けない職場に、若者が関心を持てるはずがない）</li> </ul>
興味、関心を持っていたとしても、仕事内容、勤務時間、給与の少なさ等で疎遠がちになると思うので、仕事内容、時間外労働は難しいとしても、給与などで、カバーしていけば、やってみようと思うのでは？これから、もっと必要だ。と言っている割に、カバーしていこう、としていない様に思える。
福祉業界はキツイ・汚い・危険とイメージされる事が多いので、そればかりではなく、熱心に取り組む事の大切さや、大変な事はばかりではない事を TV、ネット等で配信し、少しずつイメージを変えて行ってみればどうでしょうか？
福祉に関わる全ての職種の処遇改善！
身近な福祉サービスを見学されるとよいかと思う。例えば、社会福祉協議会などで行う、地域とのイベントのボランティアへ参加する。老人クラブに通うお年寄りとコミュニケーション。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に関する TV ドラマ（介護の現場やボランティアなど）を放映して、興味、関心を引く</li> <li>・施設での体験実習の機会を多くする</li> <li>・幼少時からボランティアに携わる習慣をつける（福祉先進国スウェーデンでは、幼少時からボランティアの機会を多く持つことで、体験的に身近に福祉が存在することを実感でき、成長してからも福祉に興味や関心がもてると研究報告がなされている）</li> </ul>
人と人との関わりを大切にしていく

<p>社会全体で、高齢者、障害者との隔たりをなくして、身近に感じられるようにする。福祉の現場を見れるような機会を作る。資格、業務内容、待遇面についても、もっと明確に示す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験（←しかしこれは、受け入れる前の段階で、学校、学生の準備が整ってから）</li> <li>・「ホームヘルパー」など、名前だけ知られているものが多い。実際の仕事内容を見る、聞く（体験する）、イベント的なものがあると良い。</li> <li>・現職者が学校に訪問する。</li> </ul>
<p>多種多様な分野のボランティア活動の紹介や、セミナーの開催回数を増やす。</p>
<p>現職の人達が満足いく待遇がなされる事によって、この仕事をすすめられますが、今の状況では、興味、関心だけでは難しいと思います。</p>
<p>地域の福祉施設との交流の機会をもって、もっと身近に感じてもらう。</p>
<p>高校の時から福祉施設のボランティアに行ったり、今は近くに住んでいる人も少ないと思いますが、自分のおじいちゃんやおばあちゃんの家に行ってお話するだけでも違うと思います。この世界は、厳しいと言われていますが、仕事を始めると、また見る目も変わってくるので、ぜひヘルパーでも良いので、勉強して一緒に働きましょう。</p>
<p>もっともっと現場をみてもらう。</p>
<p>福祉教育を通して、関心を持ってもらう取り組みはされているが、教育されて関心を持ってもらうものではなく、色々な活動（ボランティア）を通して、自然に養われていけるようになってほしい。</p>
<p>給与面を改善しなければ、未来の担い手は育って来ないと思う。関心を持ってもらう為、各地域密着の連携が必要だと感じる。積極的に職場体験を行う。ストレスがたまる仕事なので、介護人の心のケアをする事も大事だと思う。</p>
<p>月に1回でも福祉の授業（実習あり）があるとよいと思います。</p>
<p>気軽に高校生が見学できる様、施設側の体制をととのえる必要があると思う。</p>
<p>施設に気軽に入る事ができるように、施設側が開かれていかななくてはいけないと思う。</p>
<p>授業の一環に、現在の福祉の事などを授業に取り入れていけば、少しずつでも興味を持つ高校生もいると思います。実際に介護の中身がわからなければ、興味関心を持つ事は少し難しいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月々の生活の中で興味、関心を持てる様な環境を整えていく事が大切なのは。</li> <li>・幼少期～学童～成人していく過程で、日常の生活のなければならぬ場面で、おじいちゃんやおばあちゃん等と触れあえる環境を整えていく。</li> </ul> <p>→例えば、小さい子ども達が、昔の様に駄菓子屋でおやつを買う際に何気なく店主と会話する中で、通ううちに自然と話しが弾むようになっていたなど。</p>
<p>業界全体の未来が明るくならなければ興味関心を持ったところで、離れていくだけムダ</p>
<p>楽しく、イキイキと働くコマーシャル</p>
<p>重労働のわりには給与が合わない。働けば働くほど生活が苦しくなる。</p>
<p>ボランティア活動を授業の中に取り入れる。サークル活動・部活動で、体験活動を取り入れる。</p>
<p>楽しく働ける職場である事。</p>
<p>職場体験（いろいろな職種）の機会を多くする。賃金アップ</p>
<p>課外授業等で、ボランティアに来てもらったり、学校行事等にこちらから出向く。</p>
<p>施設研修。給与アップ</p>

施設での実習等を増やし、みんなにどういう仕事が理解してもらおう。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設を身近に感じてもらえるよう、見学者、短期実習等の受け入れをする。</li> <li>・園祭等の行事でたくさんの人に来てもらい、アピールする。</li> </ul>
一日、一日、入居しているお年寄りが、無事に過ごせる様に支えることは、本当に大変な事だと思います。日々、緊張感があります。福祉に携わることは、想像以上に大変です。簡単な気持ちでは出来るものではないと思います。どんな仕事をしているのか、実際に見学に来て、目で見るのが一番わかりやすいと思います。大変な仕事ですが、みんな元気に働いています。その姿は、魅力に感じると思います。
高校生達とお年寄りの方達とが交流する機会を作っていく。
実際の現場に入り、見学だけではなく、実践してほしい。その中で、本当に自分がこの先、勤まるのか考えてもらいたい。
選択授業に、介護の現場でどのような事が行われているか、分かるものを組み込む。
上記の内容は、どちらかというと、教育に関わる内容かと思われるので、申し訳ありませんが、提案は思いつきません。
小学校の頃から、福祉施設の見学や障害者との関わりを持つような取り組みを行い、高校生になる前に関心を持ってもらう。また、高校の授業に福祉論を学んだり、福祉施設の実習を必須にする。
利用者に関わる機会を増やすことが大切であるように感じます。道德の時間などを使い、ボランティアを体験してみるのはいかがでしょうか。
学校の授業の中で、福祉に関する科目を必須として取り入れる。その中で、現場の見学、短期間での実習等、福祉の現場を知る機会を設ける。
公休日、勤務時間、給与の安定
世界中で起きている、いろいろな事とくらべられる機会があって、自分の中で、それぞれの若者が感じて方向を見いだす、その一つに福祉をくればたら良いのではないかと？
実習やボランティア等を積極的に学校側で取り入れ、福祉の良い所をもっと多く体験してもらおう。
たくさん老人、体の不自由な方とふれあう機会をもうける。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与アップ</li> <li>・法律の改良</li> <li>・施設利用者との出会いの場の提供</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で触れ合いを多く設ける。</li> <li>・高校で、施設見学、又、実習の機会をつくる。</li> </ul>
授業の内外問わず、学校生活で、日常的に高齢者や障害者と接したり、一緒に活動する機会を作ることが良いと思います。学校、地域、福祉労働者の3者の連携が重要だと思います。
ボランティアなどに参加して、何か少しでも感じてもらえればいいと思います。
高校生と利用者の交流の場を広げる。高校生が施設へ行くときは、施設側も、きちんと受け入れ体勢を整える。受け入れっぱなしは、しない。
以前、身内（高校生）が実習へ行った施設は、特養で、利用者の隣に座らせっぱなしで、指示が全くなく、寝たきりで、言葉が話せない利用者の隣に居るだけの実習だったそうです。
こういうことがあると、興味関心がなくなると思うので、そういう所からも、目を向けた方が良いと思います。
現場に入ってもらうのが一番良いと思う。実際に福祉の現場に入ってみて、本人に感じてもらうのが良いと思う。
体験するような機会を作り、喜びを感じてもらおう。

今でも行っている事だと思いますが、高校生たちや子どもたちが、高齢者や障害者の疑似体験をするのは大切だと思います。オムツをあてたり、寝たまま洗髪、アイマスクをして外出など、助けを必要としている人の気持ちを体験すると、仕事につかないまでも、相手を理解できて、興味も出てくると思います。
幼少期から身近に感じる事が出来るような環境づくり、施設、作業所等、様々な事業所に行き、ボランティア等を通して理解する場をもうける。
労働条件の改善、福祉の雰囲気改善、カリキュラムとして、福祉分野にたずさわる時間を短時間でいいので作る。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与面の見直し ・生活の安定</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給料を高くする（ボーナスも出るように）</li> <li>・高齢者福祉の楽しさ（利用者の方と話しをする事）など、説明する事と、施設などに見学に来てもらう</li> <li>・休みを多くする（おぼん休み、正月休みなど）</li> <li>・福利厚生を充実させる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法を決めたり、検討する人たちが、今の現状を全く知らないと思うので、現場で働いてみるといいと思う。</li> <li>・まずは、低給与をなんとかしてほしい。モチベーションが上がらない。</li> <li>・高校生たちは、認知症についてや、それに対してどう接すればいいのかわかる機会を持つと良いと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の授業に、職員（利用者）を招いて話しをしてもらう。</li> <li>・福祉が報酬をたくさんもらえるような仕事となること。</li> </ul>
高校生の授業でも具体的に経験、体験をし、知る機会をつくる。
介護報酬を上げていくことが必要（国が）。しっかりとした経験、知識のある者が、高校や他学校で教えていく。（学校に現場上りの教師が必要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早いうち（中・高）に認知症というものを取り上げ、認知症の理解をすすめる（学校や施設との交流）</li> <li>・労働条件の緩和や、高収入等「働きたい」と思えるような環境作り</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護施設などのボランティア受け入れを増やし、交流してもらう。 ・福祉職の先輩方が、この職について良かったと思える事を話してあげるなど。</li> </ul>
障害者と接する機会が少ないと思われるので、もっと体験できる場を増やしていければ良いと思う。
待遇 ・給与 ・勤務形態
ボランティアイベントを行う
専門的な知識や技術を身につけて、看護と同じような立場になれるようになったら、プロフェッショナルな人達が増える。若い人達のモチベーションが上がるよう指導してほしい。
実際に働いてみる。働いている人の話しを聞く。働いた上で、高校生同士で、グループワークなどしてみる。
高校とその高校付近にある福祉施設が連絡をとりあって、ボランティアが手軽にできるような環境をつくっていく。
職場体験等の機会を設け、積極的に高齢者施設等を見る機会を増やしていければ良いと思う。また、高齢者の方の生活の実態を理解してもらうために、授業や研修会等を設けること。現在働いている方からの言葉等を伝える機会を設けていければ良いと思う。
職場見学など積極的に自分達の仕事をアピールする。
給与を上げるのが一番適切、たいへんな仕事でも給与さえ高ければ働けると考える人は多いと考えます。

実習として福祉の仕事ともしっかりと交流があった方がいいと思う。
福祉の世界を知ってもらうために、体験学習等の機会を増やすことが必要。
授業に取り組んだりする。
・給与の見直し ・自由な発想を持った福祉現場を作る。
介護の仕事の説明等を聞く際、介護の良い面と悪い面を聞くことがあると思うが、イメージと実際の現場は違う為、就職する前に、見学だけではなく、実習期間を作った方がいいと思う。
福祉に対する知識をもう少し、一般や知識がない人でもわかるような講演、講義をしていくと、若い世代にも人気が出てくると思う。
マイナスイメージではなく、プラスイメージを持ってもらえるようにする。
早い段階から福祉に対しての実習や体験など
ボランティアなど
ボランティア、実習への参加の機会の提供
良い部分も悪い部分も伝える。
・一緒に遊べる機会 ・本当に必要な学習。知識的なものでなく、人間について発達について、互いに生きていくということについて。
給料、賞与などある程度充実しないと生活していくには難しいとおもいます。
社会にとっても必要な仕事であるその職場で働いている者のすばらしさや思いを伝えたい。最近マスコミでつらい、大変、等マイナス面が伝えられているが、本当はすばらしい仕事であることをクローズアップしてほしい。
人とかかわりで自分自身財産になる事、自分自身も年をとっていき人間の流れの一部であり、その中でお年寄りとかかわることを幸せだと思っていただきたい。
職場体験
実際に体験したり見学する事が大切だと思う
待遇のアップ、高齢者又は全人民に特に政治家に専門職である事を理解してもらう。医師、看護師からは専門介護はお手伝いというイメージになっているのが不満
T Vなどのメディアによる広報、高校生を交えたイベント
高校の授業に組み込むただし、ありのままの現状を見てもらわないとはたらいてすぐやめることになると思います。コミュニケーションのとりかたがわからない学生が多いとききます。ならば利用者とゲームなど共有する方法もよいかもしれません。（昔の遊びなど利用者の時代背景をしれるような内容で）
暗く重い仕事と思われがちなうえに正義感の強い若手が折れやすい仕事と思うので、キレイではなくボランティアでもないという事や、厳しくつらい仕事であるがよいという事をはじめにきちと学ぶ事。職場内で仲間との交流をきちんとおこなえる職場を多く作る。
核家族化のため高齢者と接する機会がないので、授業の中でも時間がつくと良いと思います。一緒に楽しめる事もたくさんあるので「福祉＝介護」ではなく若い人たちが「学ぶ」という機会があれば良いです。
給料の底上げ、福祉職の広報活動等を行う。学校教育の中に福祉を取り込む（義務化）と差別や偏見がなくなるかもしれない。
授業等で福祉の現場へ見学に行く事。

積極的に老人ホームや介護施設などにボランティアに行き、色々な人とふれあう。
「福祉の世界」に触れる機会をいくつも作る事。高校生になって自らすすんで入ってくる人たちは少ないと思うので、小学校、中学校からどんどん導入すべき。
学校の授業で福祉についての勉強を取り入れて福祉現場での体験実習等の取り組みを多くする。
仕事内容などで悪いと思うところを少しでも軽減させる。 ボランティア等などの経験できる所を増やす。
職場体験で特養老人ホームやサービス、グループホームに行けるようにする。
魅力ある所を宣伝する。やりがいがあること、この仕事をしていて良いところをアピールする
暗いイメージを払拭する事。 国が福祉に関心をもち予算をつける事。 努力している人が報われるような体系システムを作る事。 上記をしなければまず良い人材は集まらないと思う。確かにフォーマルな支援や集いの場を設ける必要はあると思うが、福祉介護の全体的な底上げにならないと思う。
ボランティア体験、職場体験
実際に体験してもらうことが一番だと思う。見学ではなく実際にやってもらう事が必要だと思われる。
地域との交流をはかる。
理想と現実のギャップは多かれ少なかれ必ずあると思う。とても難しいが人の力になれることは自分の力にもなる事を感じられる環境が大切では？メリットデメリットも伝え、高校生が意欲的な考えをもつため実施研修の場が多い方が良いと思う。
学生時代に福祉についての講演などをたくさん聞く事、また当事者との交流体験
暗いイメージでまたお金が安いと思われているので、もっと夢のある姿（イメージ）をわかってほしい。
高齢者や障害者等、福祉の支援を必要とする人と普段からふれあう機会があるといいと思います。
継続的に行事などの参加で、仕事を理解する場をもうける。高給料
ボランティア活動を単位に組み入れる。高校の授業等に福祉の科目を作る。インターン制度
福祉の仕事のイメージが「安い」「きつい」となっており、その部分だけがクローズアップされてしまう。やりがいや仕事内容等を知ってもらう機会があればいいかと・・・
学校のボランティアに来てもらう
介護事業所での体験学習。（見学だけではなく実際にやってみることが必要だと思います）賃金水準を上げる（職員の給料を一流企業に少しでも近いものに）
給料UP、授業でドキュメントを見せる、ドラマ
様々な分野の現場への研修、具体的事例の提示、援助技術の紹介など
様々な福祉施設の見学や現場の話を聞く機会の提供など。
低賃金だと離職率が下がらないのも仕方ないと思います。
積極的にボランティア等に参加し様々な福祉を見ると、利用者に関わる機会があった際、自分本位の関わりではなく、( )皆さんの声に耳を傾けて皆さんの良い所を知ってほしい
現場見学など



ボランティア活動の参加の促し（学校側から積極的に）
行事等の参加をお知らせする。学校にパンフレット配布。
高齢だけでなく、障害についても誰にでもあり得ることであることを伝えていく機会を設ける。そのためには来年から再始動しようとしている「詰め込み教育」をやめるべきである。人生にとって人として「重要なのはなにか」を問う、学ぶことができる機会を設ける。福祉に興味関心を持つ機会
実習に行く機会、交流を増やす
学校にいるうちから障害者や高齢者と接する機会があること。学校としての取り組み
あれこれと説明するより、まずは実際に利用者の方と関わってもらうことが大事ではないかと思います。コミュニケーションを通して肌で実感してもらう。楽しい時間を一緒に共有する（イベント等での交流）学校の積極的なかわり（実習で来た学生さんに対して職員も親しみをもってもらえるよう心掛ける）
生活するために仕事が大切。 しかしTVや新聞では給料が低い為と言われ、来る方も少ない（実際労働時間は長くないへんです）介護職でも安定した給料と時間があれば福祉の仕事も考えるのでは。
給与面（これだけ忙しくても給料は見合っただけもらえる等）地域の人たちが福祉施設の存在を当たり前知っているような環境・・・学園祭で名前を聞いただけでわかるような認知
インターンシップで高齢者と交流を持つ 福祉の仕事の内容や職の違いを知ってもらう 医療のかかわり、ディサービスにカフェをプラスして高齢者と一般の人との交流の場を作る
給与面の向上
事業の中でボランティアや福祉施設へ参加する機会を増やす。
ボランティア活動等を増やし実際に体験し、利用者様と関わる機会を作る。そうする事で楽しさややりがいを感じられると思います。
統一した介護や充実したケアを提供するための事務的書類等は大切であるが、もっと簡素化する、もしくはその業務をこなす時間を業務内に取り込み、気持ちに余裕を持って利用者のケアに専念できるようにすると雰囲気も良く見え関心を持ってもらえるのではないと思う。とてもきつい仕事、精神的にもきつい事、それを支えるためには（モチベーション）給料アップと考える。ナースと同じくらいまでの引き上げがあると、目指す子供は必ず増えると思われる。
もっと福祉と触れあえるように、ボランティアなどを増やす。（学校の授業で福祉施設に行く）
ボランティア等で体験の場を充実させたり従業者の話を直接聞き、もっと福祉を身近に感じてもらう機会を多くつくる
ボランティア活動やインターンシップ等を通して、「知って貰う」機会を多く持ってもらう事が必要だと思います。福祉は決して特別な人だけが必要としているものではなく、誰もが人として支えあいながら幸せに生きるために必要とする身近なものであるということを知って貰いたいと思う。
福祉現場の体験や実習。地域や学校などの交流の場（受け入れるばかりではなくこちらからも出向いたり）。各施設が行っている行事や活動のPR。福祉従事者の体験談など実際にあったことの講話（魅力はもちろん大変や苦しいことなども）。福祉の世界を体験すること、知ることが少ないと思うので、どんな形でも良いので多くの人に福祉に携わってほしい。
体験学習をしてみる。賃金を上げて一流企業に負けないくらいの生活水準を向上させる

福祉の世界が身近に感じる事が出来るようにマンガかドラマ等メディアの活用を行う。事前知識を得てからの現場体験をする。人を理解する面白さを気づけるように福祉従事者と事例検討を試みる。
私たちのような世代が働いている環境や仕事の面白さ、やりがいなどを直接伝えられる機会などあれば少しでも興味もってもらえるのでしょうか・・・正直私も高校の時福祉の現場はどんなものかわかっていませんでした。見学や考え方も変わるんじゃないかな-と考えてます。
お年寄りから色々なことを学べる職種である。
自分の人生設計をしてもらい、自分が高齢になったときのイメージを具体的に持ってもらう。今ある福祉サービスを紹介し、利用したいと思うのか、又、どういう生活をしたと考えるのか。家族や身近な人を通して、福祉の現状を知ってもらうのもよいと考える。
まず、職場の人間関係は良好でないといけない。不景気な世の中である為、待遇が良くないと興味も出てこない。福祉の精神、ボランティア精神も大事だが、それだけでは乗り切れない、今日の世の中ではあると思う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業で福祉の見学、体験をする。</li> <li>・福祉のイメージを変える。(汚い、恐いなど・・・)</li> <li>・楽しんで働ける事を伝えていく。</li> </ul>
障害を持っている人達が地域に出る機会を増やすことと、ボランティア活動が出来る機会を増やしたらよいと思います。募集することや普段から学校と交流できるようにしたら良いと思います。
実際の現場を多く見て、色々な経験や体験してほしいです。
経験すること。交流すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・職場体験・講演・伝えることが必要</li> </ul>
福祉とはどういうものなのか、どんな事業があるのか、解りやすい講義を行なってほしいと思います
給料水準を向上させる。
小さい頃から、お年寄りと関わる機会が少ないので、まずそういった機会を増やすことと、学校でキャラバンメイトのような講義があるのもっと知ってもらえる(認知症など)。バスなどの交通機関を利用することが多い学生に「こういう方を見かけたら」など、具体的な例をあげて、分かりやすく指導する。
「ボランティア」ではなく「仕事」として成り立てるような状況。やはり介護報酬が取れるようになるだけで必要性が高まり給与のアップにつながる
私の小学校の隣には、特養があり、出入り自由でした。学校帰りに気軽に遊びにいけるような施設があればいいとおもいます。
他の職種の方との交流
「福祉」は地味なイメージを持たれやすいが、本当はとってもハードで、ただその中に人と関わる楽しさや、人生の先輩と過ごす貴重な時間、出会いや別れがあり、深い仕事だと思う。そんな実際の現場を体験することで、福祉への興味がわくと思う。
やっぱりボランティアや、実際に福祉の現場を見てもらう。言葉だけでは、伝わらないし分からないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した給与体系の充実</li> <li>・施設や事業所に来所しやすいムード作り</li> <li>・ボランティアや中高生、福祉の関心がある方などの担当者を置く。</li> </ul>

<p>・積極的に地域に出てアピールしていないといけないと思う。</p>
<p>低賃金・重労働の改善</p>
<p>福祉とはどんなものかをもっと伝えたほうが良いと思います。低賃金・重労働をもう少しどうにかしてほしいと思います。</p>
<p>将来に不安を感じさせない給与面での充実など</p>
<p>福祉の世界に触れるために特別なイベントをして、特別な体験をするのではなく、日常的に困っている人へ手を差し伸べられる。又、自分が助けられたときに素直に感謝できるような良心をまっすぐ育てられるような取り組みが必要だと思います。</p>
<p>自分の家族以外のお年寄りに接するというのは中々難しいことだと思います。自分自身は祖父母と同居したことはありませんでしたが、交流が多く、中々のおばあちゃん子に育ったので、この世界に飛び込んだ頃は大きな抵抗はありませんでした。高校生と言わず、幼少の頃から段階を踏みつつ、お年寄りの方と交流が持てるのが、一番良いのではと思っています。触れ合いコミュニケーションを多く持てば、頭の理解だけでなく(心)の(感覚)の理解が出来、若者とお年寄りの壁がなくなるのだと思います。</p>
<p>仕事内容などの改善。給与面の改善。休みなど勤務時間の改善</p>
<p>もっとオープンにしていつでも来れるように、お年寄りと交流できるようにする。イベントのときのボランティアなど行事だけでなく、普段から交流できるように開放したら良いと思う。</p>
<p>交流できる場を作る。授業内容に取り入れる。身近な地域でも資格取得が出来るようにする。</p>
<p>安定した職業(収入↓や転職してしまう人が多く)というイメージがなく、マイナスイメージなものが定着しているのではないかとと思うので、改善できれば良いなと思います。</p>
<p>まず、入居者さんに愛情を持ち愛しく思わないと、ストレスが溜まる一方だと思います。相手を人形だと思わせない事。喜怒哀楽がうまく表現できず、悲しんでいる事を知る事だともいます。</p>
<p>ボランティアなどで高齢者と触れ合う機会を作る</p>
<p>実際の現場の状況を見る。働いている人から伝えていくこと。誰もが「老いる」事について又、どのような生活を送り、人生を終えていくことがよいかなど、考える機会を持たせていくことが必要であると思う。</p>
<p>部活、友人関係、バイトなど色んな世代の人達との関わりを高校生のうち(社会に出る前)に、多くの経験をして、自分以外の世界を知り、自分以外の人を認める機会を持つこと。すごく難しいことですが、ただ、単に福祉に興味を持ってと言っても、「自分より弱い人のためにしている」といった意識が強くなり、うまくいかなかったとき、虐待などをしてしまうかもしれないと思う。</p>
<p>福祉施設への見学</p>
<p>福祉の世界を見る機会や、体験する機会が必要だと思います。</p>
<p>まず、祖父母と同居していない世代がいきなり介護なんて働くとそのギャップにショックを受けると思う。グループホーム、老人ホームなどに、ボランティアで遊ぶに行くなど、少しずつ溝を埋めていくことから始めた方がバーニアウトなども防げるのでは。頑張ってください</p>
<p>もっとこの仕事の大切さを伝えていくべき。ニュースで大変さしか伝わってこない、この仕事に興味もてないと思います。そこだけじゃなくて、何で必要なのかをもっと伝えていきたい。</p>
<p>老いることをもっと身近に感じ取ってあげられる。老いてもその人らしい生活があるということ、文章や学習だけでは感じられない。人との関わりを持つ機会を作っていきたいです。仕事と割り切っては働いていけない職場である現実も分かった上で、興味を持つことが出来るならいいと思います。</p>

「どんな人も必ず死を迎える」「多くの方が、老いを迎えて死ぬ」「悔いを少なくするには、十分に生きること」「生まれた人、みんなが尊い」生まれてから死を迎えるまでを、色んな形で見せることが必要だと思います。
やはり、賃金の問題であったり、福祉も生産性が伴わなくてはいけないと思う。
今の若い人たちの考えや気持ちは自分達の世代と同じだとは思わない。やはり将来性であったり、給与の面でももっと魅力のあるものにしなければ興味や関心にはつながらないと思う。看護と介護の立場を考えても看護のほうが立場的にも給与の面も上であるが、介護においてもその専門性や仕事の内容や量によっても同じくらいなものだと思う。介護の仕事をしている人たちの社会的な立場を上げていくことが大切だと思います。
業務の厳しさに比べると給料が安いと思うので、見直しが必要だと思います。
面白さを教える。人に関心を持てるような取り組み。興味関心では介護職は難しいと思う。コミュニケーションをはかる機会を持ってもらう。
高齢者と触れ合う機会を増やし、コミュニケーションを取らせる。
利用者と地域の関わりを多く行なっていく
ボランティアに積極的に参加してみると良いと思う。
ボランティアなどで利用者と接する機会を多くし、楽しく色々なことを感じてもらう。学校の行事などで、福祉の世界を体験できるものがあればいいと思う。
今、現時点での障害者、高齢者を取り巻く環境を知っていただく。それに対し、自分達に何が出来るのかを考えていただく。(現在の福祉の劣悪な状態を知っていただくことで、これを変えなければという気持ちを育む。)
福祉＝汚い、辛い、賃金が安いというイメージを減すにはどうしたらいいでしょう・・・具体的には言えませんが・・・働いている人が成長を感じられる職場作りが出来たらいいですね。しかし、最近の高校生は忍耐力もあまりないというイメージ(イメージで悪いです) 賃金のことばかり気にしているイメージもあり、教育がゆるくなってきているのではないのでしょうか・・・(人のことは言えませんが、自分よりはそう感じるだけです)
利用者の長所を知る場所を設ける。絵とか作品の展示。
交流会(高校生と利用者と触れ合う)ボランティア活動
施設見学(体験) ボランティア活動
福祉の世界や仕事に触れ合う機会が少ないので、そういう機会を増やす。テレビなどで介護の仕事の紹介(様子)などを放送していることがあるが、きつくて給料が安い状況がクローズアップされがち。違う角度から福祉の仕事をアピールしたほうがいい。特に介護の仕事は給料が安いので、UPする事で魅力に感じたり、少し興味もてるようになるのでは。
地域と密着し、福祉に触れる機会を増やす
・福祉職の社会的地位の確立。・安定した生活が出来るくらいの収入の確保。
何の仕事でも、今の世の中で仕事があることが幸せです。しかしそれはある程度の社会経験から思うことで、次の世代の高校生や新卒者だと、お給料や休日面がしっかりとしていることだと思います。この福祉業界は他業種から見ても厳しく決して良い環境ではないと思います。体力面や感染面なども心配なことも多々あり、年配になるにつれ本当に体力はきつい状態です。少しでも福祉業が安定となるようになっていただきたいです。
福祉関係のボランティアの参加で、年寄りが一人で生活する難しさを知ってほしいこと。

小さい頃から様々な人と触れ合う機会があることが大切だと思う。クラスにハンディを持った人がいる、近所に車椅子の人を見かけるなど。生活できる収入・社会的地位を確立することも、職業を選択してもらうには大切なことだと思う。
高校よりもっと前、幼稚園や保育園のときから交流を持っていったらよいと思う。
現場を知ること(イメージや理想だけでは不十分)
障害者と健常者が触れ合える場を作る。施設見学を積極的に取り入れる。
職場体験やボランティアなどで、福祉施設に行く機会を作る
職場体験などの機会に、福祉の仕事を取り入れてもらうのもいいんじゃないかと思います。
・お年寄りの存在意義を理解する。(戦争経験など) ・排泄物が汚いというのなら、尿や便が出ないと逆に病気であることを説明し、出る(排泄物が)重要性を説明する。・認知症とは何かということを説明する。(特別、難しいことはない) ・一度事業所の理念や、施設見学など参加する機会を提供する。
福祉系は給料が安いというイメージをなくすこと、若い実習生さんを見ていると、コミュニケーションをとるのが苦手な人が増えているように感じます。人と接すること、色々な人間を受け入れられるような他人ってこんなに面白い！という感覚を伝えられたらいいのになあと思います。感覚を育てるのは難しいですが。
高校生の実習と交流会を持つ。出来るならば、生活の中に自然に「そこにある福祉」という環境であることが必要だから、「話が出来る」場を持たせることが必要だと思います。
福祉の仕事に就きたくて勉強しても、実際の現場を見てその大変さに気づき辞めていかれる方もいるので、若い頃からそういう福祉の現場を見てもらい、大変だけどやりがいもあるし、高齢者から学ぶこともあるし、介護を通して自分も成長できるということを伝えていったら、もっと沢山の若い人たちにも、福祉の魅力を伝えられるのではないのでしょうか。なので半強制でも触れ合う時間をもうけてはどうでしょうか・・・。
実習生の積極的な受け入れ
今より福祉に関するセミナーを増やしていき、現状のこと(状況)を伝えていくことと、給与面の底上げを図っていくこと。
学校祭などに障害者が参加できるように配慮する。(学校祭案内ボランティア)。学生にボランティアに積極的に参加してもらう。
福祉の仕事に就くことで、将来の生活に不安を覚えることのないような福祉業全体の給与体系の引き上げ
障害者雇用をしている事業所の見学や、障害者との交流を積極的に行なう。
広報活動により、福祉の認知度を高めていく。
地域との交流を多く図り、施設へ歩み寄れるような呼びかけや理解を深めて、身近なものになっていけば当たり前に関心をもてるようになると思います
地域に根ざし、特別ではなく当り前の場所としてオープンにしていく。
現在、福祉の仕事についている人が将来の生活に不安を持たなくするような取り組みが必要かと、現役のわれわれが元気になれば、それが次世代の人々に関心を持ってもらえる取り組みになると思う。
とにかく色々な体験が出来るようなプログラムがあればよいと思います。その時に自分で選べるだけでなく、多少希望しないことでも体験させてみるのが重要と考えます。(そこから違う気づきがあるような気がします。
よく新聞や雑誌などに福祉の世界は重労働の割には給与が低いといわれている。家庭を持っている人に見たら、今の給与では暮らしていくのが大変だと思う。少しでも一般サラリーマン並みの給与がもらえたらいいのではないかと思います。臨時職員だと1年更新なので、1年後どうなるのかという不安があると思います。

正職員待遇が必要だと思います。
福祉の現場を実際に目で見て体験する
授業内で福祉についての仕事内容などを伝える機会を設ける
福祉施設見学や触れ合う機会を増やす。
一緒に生活してもらうなど・・・
・小さな頃から、福祉の世界に携われるよう工夫すべき。(障害児との交流を学校生活で持つこと。)
・福祉施設ボランティアを1週間ほど取り入れる。
魅力があるのか良く分からないが、職員などの給与面を良くしたら関心持ってもらえるかもしれない
仕事内容を具体的にまとめて、高校などに伝えていく事。
福祉の実態を明確にし。福祉の重要性をもっと開示すること。また、福祉の環境の改善、従事者の待遇の改善。福祉というものをもっと国民全体に理解を得られるような取り組み。自立支援法の見直し。以上のことを改善し、福祉を見直す取り組みが必要だと思われる。
高齢者と触れ合う機会を作る。
興味ない人は知らないことが沢山あると思います。色々な情報を発信していただいたら、一人でも多くの人が、福祉の仕事を知ることが出来、少しでも興味を持ってくれると思います。体験学習や見学会的なものを開催するなど、机で勉強するよりも分かりやすいと思います。
もっと福祉に関わるボランティアなどの活動を出来る機会を増やす。
高校に講演会などを行えばいいと思う。講師も分かりやすく興味がもてる話をできる講師が良いと思う。
どうしたら興味を持てるかアンケートをとる。
高齢者とかかわりの機会を小さな時から増やし、高齢者を支えていくことを当たり前だという認識を持ってもらう。
学生達の授業の1つとして施設で一日実習の体験をする。施設と学生とが、交流できる場を多く持つ。
「なりたい仕事ランキング」に名前が挙がるような憧れの職業にはどうがんばってもならないと思う。必要とされていると実感できるところがこの世界の魅力的なところであると思うので、ご利用者と直接接する機会(ボランティア)が増えることが有効であるとおもいます
体験学習やボランティアを実施する。
色々なところへ行ってボランティアに参加したり、人とかわり交流の持てる場へ進んでいくことが大切だと思います。世の中には色々な人がいてそれぞれが良い生活を送れるようにどうしたらよいか、考えることが大切だと思います。
全く経験の無い方に介護場面を見ていただいても「やってみたい」と思われる方は少ないと思う。それよりもなぜ介護が必要なのか、どのようなやりがいがあるかを説明し興味を持っていただいた方が良いと思う。
介護福祉士という職の立場の確保給料の安定
まだまだ障害を持った方達と接する機会が少ないように感じます。高校生に興味を持ってもらうためには、小学校中学校の段階で身近に障害者を感じてもらうのが大事だとおもいます。小さな頃から施設に訪問したり、施設の側も積極的に地域の集まりに顔をだすことが必要だと思います。
福祉の指導に興味関心を持っている人は多くいると思いますが、実際に仕事として考えると魅力が少ないのだと思います。高齢化が進む中で、自分たちの家族や親族などの関わりなどから、高校生であっても福祉の

分野を意識している人は多いと思いますが、その興味や関心をつなぎとめ、より強いものとするためには、肉体労働で仕事は大変だが、長く働いていても給料が増えていかないという現状を変え、魅力のある福祉の分野を築いていくことが大切なのではないかと思います。
職場体験などを通じ、福祉の仕事を理解してもらう
採用条件の改善
福祉についてもっと必要なことを知らせるべき、少子高齢化、障害について周知する。それだけでなく、人と人のつながり、無縁社会なんて事が無いような国に。
就学時のボランティア体験、福祉施設従事者からの講師派遣、待遇面の向上
福祉が近代的にも未来的にも夢があるということを表現できる取り組みが出来たらよいと思います。
福利厚生充実、医療費、年金、他税の減免、働きやすい環境、人材育成、人材確保、福祉職のクローズアップ、閉鎖感から開放感へ
「介護」「認知症」などのイメージが強すぎて福祉＝「世話」という世界になりすぎていると思う。認知症であろうとなかろうと要介護状態であろうと関係なくその人がその人らしい生活を送ることをサポートできることが福祉であるということを知ったうえでこの仕事につかなければ続けていくことは難しいと思う。「福祉」「介護」のイメージを変えてもらいたい。
コミュニケーション能力の低い職員、利用者のニーズにこたえず自分の考えを利用者に押しつける職員-離職
施設見学、利用者との交流施設の行事に参加など
地域ボランティアに積極的に参加するとか施設にボランティアに行くなど
興味関心を持って実際に現場に入ると、そのギャップ（仕事の大変さ）で離職者が多いと思う。給与も安すぎるのに問題がある。大変な仕事であることを初めにボランティア活動や学校の授業（道徳など）で知ってもらった上で、その奥にあるやりがいのある必要とされている仕事であることを教えてほしい。そのためにも、国が現在の福祉の職場をもっと理解し、給与の面でも、保障してくれないと、従事者のその不満はなくならないと思う。福祉関係だけにとどまらず、人間関係の構築問題にぶち当たったときに、自分で解決する力をつけるなど、人間を育てる授業にもっと力を学校で入れるべきではないか
待遇の改善
ボランティアの機会を増やす。福祉についての交流会をもつ。
現場を知ってもらうことが一番だと思うので、現場体験などの科目を必修科目に入れてみてはどうか
実際に見て、感じていただける環境を作ること（短期間ではなく長期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉職場で働く人からの講義などの事前学習により、福祉サービスやその仕事についての理解。</li> <li>・福祉施設に訪問し実際に働く人に質問したり、職場で実際に仕事を体験</li> <li>・お年寄りの方などとの交流の場を持ち、先入観をなくしてもらえるような取り組みをする。・福祉の世界が大変なだけでなく、楽しさもあることを分かってもらえるような、映像をテレビで流す。（現在は、ほとんど大変なだけなので）</li> </ul>
単なるボランティアに来るだけではなく、実際の業務に参加、体験、実践することで、利用者の「ありがとう」や笑顔を持つ機会が出来る
福祉施設の見学を積極的にする。
現場の状態を知ってもらったり、地域で行なわれている福祉に関わることに少しでも多くの人に参加してもら

い、大変さだけでなく、今、人が不足していて、必要とされていることを知ってほしい！
お年寄りの方と高校生が関わる場を設ければ、もっと身近になり、興味を持ってもらえると思います
国全体が介護職の現状をもっと理解、把握し、金銭面などの見直しが大いに必要だと思います。なぜこのような不況の中、就職難の時代に、介護職が足りないのか、人は誰しも年をとり、脳は衰えていきます。今はどんなに元気でも、いずれは自分がという思いが、全ての国民が持てるようになれば、明るい未来が見えてくると思います。
ボランティアや一日仕事体験などできっかけを作る。特養より、温かい感じがするグループホームの見学
ボランティアや実習など、交流が必要。自分たちが出来ることが（利用者にとっては）当たり前ではないということを知ってもらえる内容のものを計画する必要がある
やはり、男性だと結婚したときには給与が最低限必要だと思うから、増す必要があると思う。
教育の中で、実際に福祉施設への訪問、見学などの機会があれば、興味を持つ人がいるかもしれないと思う。
本当に福祉がしたいという学生は少ないかもしれない。この不景気で高収入で安定した仕事を望んでいる。実際に問題になっているが、この低収入を解決することが1番だと思う。リストラされた人が、低賃金だが仕方ないといって、介護するという流れがイヤ。そこに賃金を上げない政府のずるさを感じる。
基本給のUP→あまりにも低すぎて、女性ならまだしも、男性なら将来家族を支えるのに十分なお金が稼げないと思う。もう少し、高くしたら興味もわくのでは・・・？
課外授業で福祉施設へ訪問する。又、実際に現場で働いている方を呼んで介護のどこにやりがいを感じるか、どこを魅力に感じるか話していただく。呼ぶ方はベテランの方も良いが、高校生と年代が近い「えっ？この人介護しているの？」というような若い人を起用するのも楽しいかもしれません。
学校生活で1度でいいから、福祉関係のボランティアをしたりする。
授業で福祉のビデオなどを見せる。高齢者との交流の場を作る
喜びややりがいを感じる事が出来る映像などを見てもらう。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の見学。</li> <li>・認知症についての理解を得る講習会。</li> <li>・介護が必要な方との交流</li> </ul>
法で賃金面での改善を進めること。現場でのボランティア活動で現場を見てもらう
授業の1つとして学んでもらい、ボランティアとして、ホームに来てもらいお話をしたら良いと思う。学生が考えていることと実際では違うことが多いと思います。来所前後ではイメージも変わることが多いので、見学の機会が良いと思います。命の大切さを学んでいる授業に加え、高齢者の想い、生活の現実を伝えること、大事かと思えます
高齢者や障害者との交流
<p>学生時代からデイサービスや障害児者施設へのボランティア経験をさせる事。</p> <p>人の心の痛みをわかるよう指導する事。</p> <p>一人では人は生きていけないと指導する事。</p> <p>高齢者は行く道、子供は来た道、弱者を煙たげるなど教える事。</p> <p>「人は人さ」人と思うだけで人は変われると伝えたい</p>



<p>若者が自分自身に関係のある世界だと認識できる機会が大切だと思います。同世代～年齢の近い世代の経験、体験を知る場があればと思います。</p>
<p>福祉の仕事に参加せざる機会を増やすこと</p>
<p>高校生達の中（授業の中）に「福祉」という授業を学ばせる（取り入れる）「福祉」と聞くだけでもあまりよいイメージではないと思う人もいます。でも「福祉」の中でも幅広いと思うので「福祉」とはこのようなものがあると興味を持てるような工夫をすると何か変わるかもしれないと思います。</p>
<p>スポーツでの交流（パークゴルフ等）一般大会への参加、高校生が読む雑誌などにのせる。芸術などをインテリアにしたりアクセサリーにして広める</p>
<p>作業所での作業所体験</p>
<p>福祉といっても沢山の職種があるので、どのような職種や行なっていることをまず知ってもらう。</p>
<p>施設訪問などで、まずは利用者と触れ合う機会を持ち、難しいことではないよという気持ちを持てるといいのではないのでしょうか？授業のカリキュラムの内容にまず組み込んでしまえばよいと思います。その触れ合いの中で、何か感じる事があればいいと思います。</p>
<p>施設で行なわれる行事にお手伝いとして、高校生を起用するのも良いと思う。</p>
<p>福祉の世界を知ることからはじまり経験体験することより興味関心を持ってもらう、学校生活の中で知ってもらう</p>
<p>体験してみるのが一番いいと思います。私がこの仕事に就いたときはまず体験したのがパットをあてて排尿する事でした。自分で思っていた以上の気持ち悪さがあり使用している方達の気持ちが分かりました。パットをあてるのが無理だとしても、授業で教えられる事は沢山あると思います。例えば目の不自由な方の体験をする為に目隠しをして歩いてみるとかお年寄りになったつもりで手や足に重りをつけて体を動かすのがどれ程おっくうになってくるのかの体験をしてみるなど・・・どんな事でも知っていて損な事はないので授業でどんどん取り組んでほしいです。</p>
<p>福祉職のイメージ（つらい、給料が安い）を変える取り組みが必要ではないか？マイナスイメージばかりではなく福祉職をしていてこんなところが良いとか素晴らしいなどのプラスイメージを伝えていくこと</p>
<p>給料を上げる</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進んでいるのだから、もう少し給料上げること。</li> <li>・働きやすい職場に上司が先頭になってしていくこと。</li> <li>・相談にちゃんと乗ってくれる上司がいること。</li> <li>・下部に注意をしたことを上司はちゃんと守ること。</li> <li>・職員内での交流をたまに行なう。</li> <li>・利用者さんとの交流も沢山設ける。</li> <li>・実際に高校生が実習に来て感想聞きましたが、良い感想は聞かれませんでした。排泄の介助（おむつ交換）や忙しさにあまりよく思わなかったようです</li> </ul>
<p>参加する高校生達が楽しめる企画、友達と一緒に気軽に参加できる、当事者の人たちと一緒に美味しいものを食べる楽しい体験ができるなどの機会から徐々に福祉に興味を持ってもらえたらよいと思います。</p>
<p>福祉に限らず、あらゆる職業、職場の魅力と辛い面を広く知ってもらう</p>
<p>現場を見て自分がどんな仕事に向いているかを見極めることが必要</p>
<p>福祉の実情や、実際の現場に足を踏み入れ、そこで実際に彼らが何かを感じる事が大切なのではないでしょうか</p>

職員同士のチームワーク、信頼関係や意見交換、ともにスキルアップするための話し合い。仕事で行き詰まったり、大変なとき、すぐに相談したり助けを求められるような互いに信用できる職場作りが大切だと思います。
積極的に外に出ること。何をしているのか、見て分かるようにしないと関心は持ってもらえないと思います。
ボランティアの積極的な参加をしてもらい、利用者さんに触れ合ってもらおう。給料を上げてほしい（賃金が低いため、中々担い手が育たない）
まずは、こういう仕事があることを知ってもらおう。授業やボランティアの機会で、利用者に触れ合ってもらい興味を持ってもらおう。例えば障害のある子を学校に連れて行きアトは、キチント暮らしていき、誇れるくらいの給与を上げないと若い世代はやっていけない。福祉の現場の福祉を整備なども必要。ある程度の厳しさは必要だし、キチントした整備をしたうえで、報酬単価を上げてほしい。都道府県の事業も市町村事業も今の1.5倍くらいから2倍くらいにしないと担い手がなくなる。
私が考えるアイデアは、福祉系の大学、短大、専門学校に積極的にボランティアをお願いする（もちろん福祉系以外の大学にもお願いが出来たらよい）。障害者の方とはあまり関わる機会というのではないと思うので、もっと障害者のことを沢山の人に知ってもらえるようにすれば良いと思います
福祉の現場に携わる機会を増やす
「きつい」、汚い、くさい」といったイメージばかりが先攻している気がする。昔よりは改善させているのかもしれないが、もっとTVや雑誌などで、イメージを変える努力や学校でいつでも見れるような工夫。本やビデオ。
学校で地域の福祉施設に訪問やボランティアなどでイメージ・興味・関心を持ってもらう。
実際に体験しないと興味がわいたり、関心を持つことができないと思うので、学校と施設が連携を図り、色々な場面を見てもらい、現状を知ってもらうことが必要だと思う。
世間に介護（業務）内容をもっと広める。給与を上げる
ワークキャンプや事業所見学の機会を増やす
医療福祉の人不足、低給与を変える
特にありません
私が考える福祉は、誰彼構わず、福祉に興味を持ってもらうことは好ましくない。給与や安定を求めるならば、一般企業で働けばいい。インターンシップやボランティアで楽しかったから働くという甘い考えは、通用しないと思う。ですが、きっかけとしては大事と思うので今の情報で十分と思っています。もし、離職を予防するのであればしっかりと現実を見せられるボランティア、施設などでの体験が必要だと思う。〇〇の会や〇〇クラブなどでのボランティア活動では、全く経験にはならない。ただの余暇活動と見たほうがいいのか？（私もそういう活動をしてそう感じたので）とにかく、福祉の現実を見せられる活動をもって推進し、本当に働きたい者が残る体制にしなければ、資質も低下するし、サービスも保てないので…。施設も来るものは拒まないように努力する体制になればいいと思う。
仕事内容、給与
私自身、幼少期より祖父母と暮らした経験がなく、社会的にも核家族化が問題視されていますが、高齢者との関わりのない中、育つと福祉（高齢者）に関心を持つ機会は全くありませんでした。家庭での関わりが持てない方には、特に取り組みが必要だと思います。学校内においての福祉のDVD上映や直接関わりの持てるボランティアに積極的に参加してもらえるような声かけが必要ではないでしょうか。
福祉も多種多様なものがあることを知ってもらおう。ボランティアの数を増やすといいかも
ボランティアの機会を作る。当事者の話を聞く

学校全体でのボランティア、地域の高齢者との交流会
やりがいを見つけられる職場にする
授業の中に福祉などの勉強できる場を与えて見るのも良いと思う。教科書の中も少し改善するなど。情報がTV、新聞しか回りにはないと思う。大変な仕事だけれども、楽しいことも分かってほしい。やはり、給与（仕事の割りに）安いと思うので、国が（政治）が動くべき
その場で実際に関われる時間を積極的に作っていく。（1度きりでは中々興味はもてないでしょう）
私達が生き生きと楽しんで仕事に取り組んでいること。そのためには労働条件の改善やスキルアップできるための勉強の機会などが必要だと思う。
・福祉職の就職率を上げることが必要だと思います。就職先がないから福祉職をあきらめている人は多いと思います。高校生の時に様々なボランティアに参加できる環境を整えることで、興味を持つ子が増えると思います。・福祉職でも金銭的に安定して生活できるように保障が必要だと思います。
向き不向きがあるので、適性検査、面談を進めてほしい。福祉の基盤になる、倫理、哲学、社会学、心理学なところの教育に力を入れてほしい
障害者の方と直接関わることが出来るレクリエーション大会など
福祉の良いところだけでなく、厳しい側面も体験させる
給与、将来の経済的、又女性が家庭を持って出来るような組織基盤（経済的な）安定向上。スキルアップ体制
子供を育てるとしても、大学までやれる費用を捻出できない。人を支える仕事をしておきながら、わが子の幸せを助けてやれないむなしさがある。この為にも給与水準の引き上げは必要。又、ボランティア精神に強く惹かれる人がこの世界に多いが、もっと、福祉を普遍化させないと駄目。仕事として割り切れる環境も必要では？必要でよい人材は別の職種に流れている。
高齢者・障害者の方と身近に接する機会があると良いと思います
現場を見ていただく機会（在宅、施設、病院など）現場スタッフからの伝える（内容、事例など）
私自身も高校生の頃、老人施設の見学に行く機会があり、現場を見たことでさらに、興味関心を抱いたので、学校で見学実習を設けても良いと思う。「重労働の割りに低賃金」と認識があると思うので、給与が上がるとうい
職場体験実習など直接福祉の世界に触れ合える取り組みを増やして、関心を高める
福祉の世界を体験してみると、そこで何かしらの成功体験や感動があれば、興味を持つと思います。高校だけでなく、小学校から福祉を学ぶ授業や体験があったらよいと思います。
目で見る、手で感じる事が出来る機会を作る。いくら説明しても、百聞は一見にしかず
学校の行事のようなもので、福祉施設体験をしてみる。（ほぼ強制というか決まりのようなものにする。）実際に高校の時は、全く興味がないというか聞いたことはあるが、福祉とは、何か知らないという人がほとんどでした。なので、見学だけでも良いので、この世界を知る場を与えるのはどうか？
職場体験をするのが良いと思います。実際に利用者の方と触れ合い、自分の目で見て体験するのが興味を持つ第一歩だと思います。
給与面での見直しと共に、地域との交流を深める。大変なことも多いけど、給料は高いしお休みもキチンと取れる。プライベートの充実できるとアピールする。
真剣に考えないといけないから、話し合いなどする。

<p>学生の授業やクラブ活動などで、福祉の職場への見学や、体験実習を取り入れ、まずは知ってもらう事。福祉の現場においては、イベントや行事(毎日の生活の中でも)など、一般の方々が参加したり、ボランティアなどで関わりやつながりを持てる機会を見つけ出し、取り組んでいくこと。</p>
<p>もっと下の学年からのインクルーシブ教育の取り入れ。福祉の仕事が理念や技術の上に成り立っていることなどを伝える。給与面、労働条件、将来性の確保。</p>
<p>現場の従事者が福祉の仕事のやりがいを伝えるべき。ボランティアを行なってもらい、色々感じてもらう。</p>
<p>立場の弱い人間の立場になって考えられるか。どう接したら良いのかなど、考えられる場を提供する。又、実際に体験してみる。</p>
<p>現状を知り、過去を振り返り、未来を考えること。自分や自分と親しい人たちに置き換えて考えること。まず少し体験してみて、できそうかどうかおりはかること。</p>
<p>そもそも若い世代の人たちが福祉の世界に興味を持つこと自体がまれだと思います。まして、3Kの職場にあるのに、どう取り組んだところで、働きたいと思う若い子はいないでしょう。自分は障害児療育に携わるものとして、新たな専門資格を作ることが必要であると思います。この業界には誰でも何でも良いのではなく、職に就くための明確な道しるべがないから、なんとなく職に就いた人、致し方なく職に就いた人が多すぎるのではないのでしょうか。離職率の高さはやりたくない仕事に就いているから当たり前ではないかと思います。</p>
<p>実際に体験し、利用者や職員の話を知ると良いと思います</p>
<p>専門性のある仕事にはきちんとした報酬を与えよ</p>
<p>各学校へ出向き、自分達の施設へ見学していただけるように呼びかける</p>
<p>福祉現場を経験できるカリキュラムを組む。福祉従事者の生の声を聞ける場を作る</p>
<p>一言で福祉といっても、具体的にどのような仕事があり、どのような利用者との関わりがあるのかを紹介し体験していく。今後の福祉の必要性についての説明。</p>
<p>給与が少ないとイメージがあるため給与を上げる。施設がイベントやボランティアなど、利用者に関われる機会を作る</p>
<p>ゆとり教育を止める。又、彼らの親が家庭内におけるしつけや社会常識を（EX あいさつなど）ちゃんと教える。部活をさせる。又、祖母や祖父と交流する。授業に福祉を取り入れる。情報過剰で金・金と世間も騒ぎすぎ、又、お金の大切さを教えるために、親は早く自立させて、お金を子供達に大切に使い「稼ぐ」大変さを教える。家に置かずアルバイトを学生時代からさせたほうが良い。塾へ行かなくても大学に入れる人は入れるのだ。生きる知恵を親はちゃんと教える！！</p>
<p>やり方が1つではない。他の人たちのも見ながら自分のやりやすいように働いてほしいです</p>
<p>悪いイメージ(給料が低いとか仕事がついとかな)を変える</p>
<p>福祉施設が今よりもっと情報を公開すべきだと思う。例えばホームページの施設紹介のようなものは、概要や定員だけを伝えるのではなく、職員の生の声を載せるなど工夫すると、職場の雰囲気や生活状況をより理解していただきやすくなるのではないかと思う。介護という敷居が高いと思われるがちな部分を、積極的に公開していくと、関心も持たれやすくなるのではないかと思う。</p>
<p>福祉の重要性を訴えると共に人間性を育てていくこと、又、社会が現状を知り伝えていくことで、より現状の改善が出来る必要があると思います。そして、色々な福祉同士の業種での交流・情報交換の場を密にしていくことで、若い人たちからの意見などを汲み上げ、反映していけるのではないかと思います。</p>
<p>授業の部分で施設ボランティアなどへの参加</p>

<p>給与の改善・障害者に対するイメージ（危ない、変な人などマイナスなイメージがある。小さな頃から接する場を増やすなど）の改善・幼児期から成人期に一貫した専門的支援を行い、重度障害者でも地域、社会生活できるという実践を作る</p>
<p>福祉の世界に触れることの出来る機会を設ける。先輩訪問など、福祉で働いている人の話を聞ける場を設ける</p>
<p>様々な現場（生活や余暇で利用者に関わる）で、同じ事を体験する、例えばスポーツの大会に参加して、サポートすることや、街で見られる障害を持った方々の気持ちを考えられる授業をするなどを行なうと良いのではないかと思う。</p>
<p>福祉の仕事が楽しく、やりがいのある仕事であることを十分な知識、技術を持った介護職員が高校生に伝える機会があると良いと思う。・実際に高校生が利用者にケアをする機会を作る。利用者より、「ありがとう」などの言葉をかけられたとき、「やってみて良かった」と思うこともあると思う。</p>
<p>本気で「福祉の仕事をやりたい」という気持ちを持った方達がいれば、その気持ちを生かせるような採用の仕方をしていただけたらと思います。興味も感心もないのに、頭でっかちや条件で従事されれば、人を扱う仕事であるのに、思いのない事務的な仕事になります。そしてそんなに甘くありません。反面で、福祉に熱い思いがあっても試験が難しい、学歴（大卒でない）などの問題で就職できない現状もあります。「本気」を見極めて、そういう人たちのやる気を生かせるような取り組みを必要と思います。</p>
<p>実際に経験をさせること。興味を持った人間にこの仕事に就いてもらう。</p>
<p>安定した給料。国が支援する。</p>
<p>長期ボランティアまたは、パート、アルバイトの実施。利用者に関われる機会を増やす。（施設訪問、学校訪問）</p>
<p>福祉の世界を知るきっかけを作る（見学、実習、体験など）</p>
<p>どのような仕事があるのか知ってもらうこと。職場によってやる違うなどを知ってほしい。</p>
<p>高齢者と交流できる機会（昔の話や遊びなどを通して）施設訪問での高齢者との交流</p>
<p>老人と交流の機会を提供する。</p>
<p>介護の仕事はきついイメージがあるが、そのイメージを取り除けるようにする。人と接することで、自分たちも成長できるとわかってもらえたらいいと思う。</p>
<p>学校で福祉のことを学ぶことも大切ですが、ボランティアなどに積極的に参加して、知識だけでなく、小さな経験をする事で、より福祉について考えたり、疑問を持って自分の成長につながると思います。</p>
<p>もっと積極的に高校生に声をかけて、施設見学やボランティア、高校に行って技術を見せたり、話を聞いていただく。給料をもっと上げれば若い人たちは興味を持つと思う。今の福祉の給料では、生活していけないし、将来性がまったくもって見えない。だから、給料を上げることが大事だと思う。</p>
<p>福祉の世界は特別な世界ではなく、ごくごく一般的なもののみを求められているだけなので、恐れることはない。</p>
<p>仕事量に見合った賃金体制が必要。現在の賃金体制では良き人材の確保は難しいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給料を高く、休みをしっかりとれるようにする。</li> <li>・高校生や福祉系学生たちも、きついからやめるのではなく、頑張るといことをよく考えてほしい。</li> </ul>
<p>福祉の世界は相手のことを知りたいと思う気持ちと同時に、自分のことをしっかりと見つめることが重要だと思います。実際の体験談やドキュメンタリーなどを聞いたり、見たりすることで、多少なりとも福祉の世界に対して意識が持てるのではないのでしょうか。</p>

<p>実際に体験し、内容を知ってもらう機会を設ける。できれば思い立った時に参加できるような気軽な形がいいと思われる。</p>
<p>核家族化が進む中で、高齢者とのかかわりを持つ機会が少ないと思う。自分の祖父母はもちろん、他の高齢者と関わりを持つことで、高齢者に対するイメージや親近感が良い方向へ変わっていくと思う。もっと、子供たちと高齢者がコミュニケーションを取れるような取り組みがあれば、世の中もっと変わると思う。偉人と言われる人よりも、若いパワーで世界を乗り切ってほしい。</p>
<p>学生と福祉施設の交流の場を設け、興味を持ってもらう。</p>
<p>利用者の方々との交流を持つ</p>
<p>ボランティアの受け入れや地域との交流を増やしていく。</p>
<p>交流できる機会をもっと増やしていく。</p>
<p>道徳などのカリキュラムや校外学習にボランティア活動を増やす。</p>
<p>学校の授業でボランティア活動を行う。</p>
<p>人から喜ばれる、感謝されるようなことをすることが大切だと思う。心から「ありがとう」などと言われると、言われたほうも「やって良かった」と嬉しい気持ちになるので、自分の行動を一つ一つ考えながら動くことも大切だと思います。</p>
<p>福祉ともいっても様々な職業があるので、それぞれの施設でボランティアや見学の枠を広げていけば良いと思います。また、金銭面でも替えていく必要があると思います。福祉の世界は3Kと言われているので、少しでもそのイメージをこわすことが大切です。世の中の流れも関係してきますが、今は正職を減らして臨時を多く採用しています。このことも福祉ばなれに影響しているかと思われます。申し間口を広げることができればいいのではないのでしょうか。</p>
<p>給与水準の見直し。</p>
<p>それぞれの福祉業界の取り組み、方向性、やりがいなどを詳しく説明することがたいせつだと思います。今の若者（新卒）は、理解力が低下しています。でも、わかったかのような顔をしているので、わかっているかと思うと、全くわかっていません。難しい言葉よりも、簡単な言葉で、例をあげることで、「なるほど」と思い、興味関心を持つ、きっかけとなるのではないのでしょうか？（1～10までの説明が必要です。）わからないことに対しては興味関心をもちません。私達が思う以上に今の若者は理解力がありません。他力本願です。</p>
<p>ボランティアを頼むのが良いと思います。施設等の行事に高校生にお手伝いを頼むことで、たくさんの人と関わることができ、福祉やその世界に興味や関心が出ると思います。福祉の仕事をしている人の話をきくのも良いと思いますが、実際に人とふれ合うことによって、興味や関心も倍増すると思います。</p>
<p>元気な障がい者とたくさん接すること。障がい者がふつうの生活の中にたくさんふつうにいること。</p>
<p>今や誰でも簡単に取れる資格や学校がたくさんあるので、一定レベルの学力を持った生徒のみが福祉の現場で活動できるようにする。それによって、福祉に対するモチベーションを上げられると思う。</p>
<p>ドキュメンタリー？ドラマを作る。定期的な学習機会を持つ（高校にワーカーを派遣する。）</p>
<p>福祉の仕事は、きついとか汚いとか言われていますが、そういうイメージが広がっているように感じます。実際の福祉の現場に次世代を担う高校生達が、体験学習出来る場が増えると良いと思います。（実習のような勉強ではなく、レクをしたり趣味活動を一緒にしたりなどのもの。）高齢者の方と関わり、感謝されたりする事が、増えれば、福祉の仕事は楽しいなと思って貰えるのではないかと思います。福祉の知識や技術は後からでも習得出来ると思うので、きつい、汚いというイメージが変われば興味を持って貰えるのではと思います。</p>

<p>社会的地位を含め、現在いる中堅職員以上の方が重要になると思います。次世代を担う方々の為にも、まずは、中堅職員の確保、育成を充実させながら、各施設の組織、チームワークを構築し、社会的地位を高める事が出来れば、自然と興味関心を持たれると思います。音楽等の芸が介護職と融合すれば興味関心を惹くのではないのでしょうか。</p>
<p>ボランティア、1月体験活動等実際にお年寄りと接する機会をつくる。現場職員との交流会。</p>
<p>行事など以外にも施設に気軽に足を運んでもらえる様な取り組みがあると良いと思う。</p>
<p>学生から福祉を勉強して働きたいと希望しても、実際の現場とのギャップがあるので、現場で実習する期間を長めにしたほうが、いいと思います。</p>
<p>現場に出向き高齢者とコミュニケーションをもつ。</p>
<p>高等学校などのインターンシップを多くしてみる。いつでも見学できる様にする。</p>
<p>まずは接する事が大切だと思います。</p>
<p>月9で福祉関係のドラマをやれば良いと思う。</p>
<p>デイサービスや施設サービスの場に見学に来て頂き、どのような事を行っているのかをまず見てもらうが一番だと思います。高校の授業内で話をする、という方法もありますが、見たことがない、どんなことをしているか、少し聞いたことがあるだけ、という人達がほとんどであれば、直接見て頂くのが一番と思います。</p>
<p>入居者と会話することがどれだけ楽しいか伝えていくべきだと思う。給与を上げる。</p>
<p>介護と言うと「辛い」「汚い」「大変」「給料が安い」「残業が多い」等マイナスなイメージがとても強い職業だと思います。なので、人とふれ合うよろこび、人から頼りにされるよろこびや感しゃされるよろこびといった介護職でしか出来ない体験等を積極的にアピール出来るといいと思います。</p>
<p>ボランティアの機会があれば、どんどん促していく。</p>
<p>これから高齢者は増えるし、認知症の事や介護のシステム等を機会があればどんどん講習等で広めれば良いと思います。</p>
<p>グループホーム、老人施設等に体験学習みたいにお年寄りと係わりを持ったりしたら、いいかと思います。</p>
<p>興味や関心を持つ為には、福祉の仕事を知る事が大事だと思います。仕事を知ってもらう機会を作り、少しでも興味、関心を持って欲しいと思います。ボランティアや実習等はやっている高校が多いと思いますが、高校生なので、長期休みを利用しての職場体験（バイト）等ならば、働いていると言う感覚が目覚めて、少しは興味関心を持つのではないのでしょうか？</p>
<p>高齢者や障害者の人達との交流の場が持てる様な場が持てるに興味を持つ学生が増えるのではないのでしょうか。（社会見学を兼ねた体験研修の様な事など）</p>
<p>ボランティアの機会が多くあるとよい。</p>
<p>介護の仕事は給与面が素晴らしいとアピール</p>
<p>小さな事でも何気ない事でも、自ら動こうという意志と自分から気づくことで実践して欲しい。自分が本当にやりたいことを続けていく事</p>
<p>ボランティアなど高齢者と関わる機会を作る。職場体験などを通して福祉の大切さ厳しさを知ってもらう。</p>
<p>地域や学校などの交流する機会を多く設けたり、実際の現場をみる機会を多く持つ必要があると思う。</p>
<p>1ヵ月ぐらい実習して福祉の良いところ悪いところをみてもらいたい。</p>
<p>福祉の現場を実際に見てみる。体験する。</p>

人間関係を築く取り組み（人と人の関わり合い）
がんばっただけのものが必ず役に立つ事をアピールし、また、そのようにする。給料の割には、きたない、きつい、では、ムリ。そこらへんのイメージを改善する必要がある。トップが福祉の現状、状態をしっかり理解すべき。机上の空論でアイデアを提案してもらっても、まったく興味も関心もわくはずもない。
高齢者との交流を深め、実践機会を大いに取り入れて行くこと。
現場の体験学習を増やすこと、高校生より前の年代への取り組みが必要であると思います。実際の介護現場を知らず職に就くとイメージとのギャップもあり、介護離れになると言える。きれいな状況だけでなく、本当の現場を知ってもらう機会が必要。
授業の必修科目に加える。
理想を持ち、長期間職に就いても、みあうだけの給与には結びつかないのが現実。私達の給与は民間企業に比べても大幅に低い。アルバイトのかけもちでも同等の賃金を得られる。福祉に未来があっても、現実私達の生活の未来が見えない。そんな業界にいくら理想を高くもっても、若い人材にはモチベーションが続くはずがない。魅力があるとは思えない。この仕事はボランティア精神が必要である。しかし、現実、自分の未来、生活を描けない、想像出来ない仕事に若い人材が育つはずがないと思う。興味だけで続く仕事ではない。基本的な賃金の整備が必要であり、望みます。自分自身4年勤め、基本給は3000円しか昇給していない。自分の将来がとても不安です。
福祉の仕事や障がい者に関わる機会があるといいと思います。
実習体験など、積極的に交流する機会を増やし、障がい者への見方等を学べる機会を取り入れたらよいのではと考える。
理想と現実のギャップをどのように埋めるのか。そこに何が必要でどういった心構えが適するのか。入ってから興味関心を持続させる業務や指導方法の内容を考えること。そこだけにとらわれず、次に入ってくる者のために何が出来るのかを考える事。働きやすい職場環境を作ること。そして、良い流れを途絶えさせてはいけない。
高校からではなく、小学校より福祉（老人や障がい者）とふれあう機会を定期的にする。授業などに取り入れる。
高校のボランティア サークルなどへ積極的に参加の声掛けを行う。
興味あることは、ボランティアを通して、どういう場所なのか、どんな利用者がいるのか、どういう想いで職員がいるのか知って貰う取り組みがあったら良いと思う。それを高校卒業した後どう動いていくかは自身によって異なるが良い刺激になると思う。
職場体験等、福祉の現場を見てもらう
一日体験ボランティア
ボランティア活動をして福祉の世界を教えて、見てもらう。
高校生と利用者さんとの交流する機会をどんどん増やす。高校生が福祉の現場に来て体験する事を今よりもっと多くあってもいいと思うし、また、利用者が学校の行事などに参加する機会があるといいと思う。
障害年金で生活している障害者の実態がわかるような授業。障害者が出張講義する等
利用者と接する機会を多く持つ事。
福祉に目を向けていただける様なパフォーマンスよりも、各事業所の雰囲気改善も必要と感じます。事業所によっては、利用者さんに対する接し方が冷たい、あらい所も多々見受けられます。一職員の私も、そのよ



うな現場を見ては落胆させられます。もっと清々しいイメージを持ち、それに近づけてゆく努力が現場職員にはあると思います。また、事業所内のみで完結する支援ではなく、より地域と交流を深め、日頃から地域ぐるみで活動するといった開かれた施設である事も大切だと思います。
この業界に入るまでは、全く感心も無く、逆に3K的なイメージを持ち、障がい者に対して恐いという偏見がありました。この様な偏見を持っている方は少なく無いと思います。それは情報があまりにも少なく、又、知る機会もないからだと思います。インターネットを使い、情報を発信する事も必要だと思います。しかし、「百聞は一見にしかず。」のことわざもあるように、実際、インターンシップで業務を体験する事も手段だと思いますし、学校、地域、施設の行事で交流を図るのも、一つの手だと思います。部活で演劇、舞踊、茶道、華道等の文化系のものであれば、慰問も出来ると思います。
少しでも希望がある会社が増える。
若いうちから介護に接する機会を増やせればよいと思う。
体験できるボランティア活動ができる様にしたら良いのでは
高校生のボランティア活動をもっと多くした方が良くと思います。
ボランティアなどを通じていい面や楽しい面など色々な事を知る。先輩の話をきく。
はたらいっている人がどんなことを担ってはたらいっているか！？（やりがい）。また、充実した労働環境なども
まだ、労働と給与のバランスが合っていないと認識されているので、くわしい説明とそれ以外のやりがいや魅力を伝える機会があればいいと思います。
介護職の給与の向上。
福祉の仕事は大変というイメージがあるので、そのイメージをなくす事と、給料が安いイメージもあるのでもう少し賃金を上げると働く人が増えると思います。
やり甲斐や喜びを理解してもらおう為メディアへのアピールが必要では。
介護報酬の改善
弱者を助ける、守るではなく、命ある者がどう生きるかを共に考えられるような社会をつくる必要があります。能力、年代、性別、望むこと、色々な背景を踏まえて共に楽しむことができればよいと思う。
まず、給料を上げるべきだと思います。重労働のわりに給料が低い。その仕事に見合う給料が必要だと思います。それと、人間関係。職場は楽しくないと仕事は絶対に続きません。新人を育てる上司、先輩が優しく指導し、職場を明るく笑顔で仕事をすれば利用者も笑顔で過ごしてくれます。介護のイメージをどんどん変えていくべきだと思います。
とにかく様々な現場を見ることだと思います。できれば体験も…。インターンシップ等でもっと福祉の現場での体験ができれば良いですね。
ボランティア活動を増やしてほしい（体験など）
私が高校生だった頃、“福祉”と聞くと「老人ホーム」「介護」というイメージが1番にありました。今はそんな事はないのかもしれませんが、それだけ福祉に関する仕事の種類が知られてなかったのです。また、知る機会もほとんどありませんでした。なので、もっと学生のうちに沢山の職業に触れられる機会があるといいと思います。（インターンシップや社会見学等）地元にある福祉施設の役割や自分が住んでいる町にはこんな福祉資源がある事を1つでも知る事ができたら、身近な事なので少しは興味がわくのではないかと思います。
・福祉の仕事の楽しさを伝える。・人間の可能性を引き出す事ができる事も伝える。
福祉系の高校での介護の楽しさ、魅力を話すなど…

高校に行き介護についての話をする。
そもそも、高校生たちが福祉の世界に興味関心がないのかどうか、実態を調査してみてもうでしょう！（福祉のイメージや将来仕事に就きたいかなども含めて）
・ボランティア精神 ・人間性・お年寄りをうやまう事
高校の単位として、福祉の体験学習を入れ、実際に経験する場を作る。
障がい者の方、高齢者とふれあう
福祉の現場でボランティアできる場をもっと設ける。職員の生の声を聞くことができる機会をつくる。
給与アップ
1人暮らしできる程度の賃金を最低支払ってもらえるようにする。この仕事をやりたい気持ちは持っていても、育児中は難しいので看護師の様に託児や育休をとれるようにしてほしい。資格取得のための研修や社員旅行がある所もある。
施設の行事に参加（誕生会、クリスマス会など）
給料が安すぎて仕事を続けられない人をたくさん見てきた。結婚できるくらいの安定した給与は必要だと思う。
核家族が増えているので、学生さんも接する機会があまりなく、高齢者が分からないのでは。学校の授業に福祉についての取り組みを学べる機会や老人ホームなどに訪問する機会などを設けて接する機会をどんどん増やすべきだと思います。
・福祉従事者から話を聞く機会を持ったり、職場体験を行う。 ・十分な生活が出来る様な給与、休日の保障等を整備し、それをアピールする。
国がバックアップをもっとし、オーストラリア、スウェーデンのような福祉をできればよいと思う。認められる職種になっていかなければならない。
今現在、小学生を持つ親ですが、核家族世代の中、なかなかお年寄りと触れ合う機会もないので、学校行事でお年寄りとの交流会があります。向き不向きもありますが、高校の選択授業として事業所でのお年寄りの関わりや、介護の勉強など、出来る事があればと思います。
① 与面の向上。 ② 小学校の授業等で福祉をとり入れる。 ③ 家族介護の報酬制度
導入部分としてハードルの低い、障がい児との関わりから入って行くと一緒に遊びながら、この子供達の純粋な気持ちに感謝すると思います。
福祉用具開発のアイデア募集
インターンシップをくり返す。→離転職をする人が多い職種であり、他の業職で離転職してきた人が就く仕事でもあるので、実際の現場に入り、見て感じてほしい。人と人が関わる仕事であり、人と人が支え合う職種が福祉にあると思う。興味関心より実体験・経験の方が大切だと思う。職種の確立ができてほしいと思う。賃金対価も安い（EX）「ヘルパー=お手伝い」という認識は未だ現場にはよくあることだ。
福祉業界は福祉＝介護というイメージが強いと思うので、福祉は介護だけではなく、様々な職種があることを伝える必要があると思う。取り組みとしては、学校の説明会に来た人たちにその旨伝えていけば良いと思う。アピールが大切。例えば、白衣が着れる!!!とか、くいつきが良いと思う。

福祉介護の根本的制度改革が必要。今のままだと次世代のマンパワーに福祉の仕事を進めることができない！
福祉を形にすることは難しい事だけど（表だった職種ではないと思うので。）授業の科目の一つ（道德など）に組み入れる。
高齢者施設への訪問、職業体験。否定的なマスコミ報道を何とかしてほしい…。よく、きつい、給料が安いとテレビ e t c . でやっていますが、きついのはどの仕事でも当たり前です。社会福祉法人への天下りは何とかならないのか。ろくに仕事もしない天下りが多すぎる。生抜きのやる気をそぎます。
<p>1. “福祉の世界に関心を持つため”というよりは、“自らの生き方を深く考えたり、人間に関心をもつ、暮らしに関心を持つ、自分を育ててくれた郷土の文化に関心を持つ、好きになるためには”と考えるべきかと思います。そういう中から、自己の大切さや深い感受性が養われるからです。</p> <p>2. 社会保障制度を学ぶ機会が必要です。社会人として、知っておくべきことだと思いますし、福祉を考えたい、もっと勉強したいと思うきっかけになると思います。</p>
若手の教育。他の従事者との連携。補助金を支払うだけでなく、その施設等がその仕事をきちんと積極的にやっているか、中身をチェックしてほしい。
福祉事業がビジネスとして成り立つようにして、抜本的な構造改革が必要。
ボランティアや体験する機会を増やす。
ボランティア（有償）の機会を多く取り入れる事が良いのではと思います。興味関心を抱くには、実際に体験しこのような仕事があるんだと知ることが大切だと思います。また、有償にすることで、ボランティアは“ただ働き”“面倒臭い”と思っていた人も、1000円でも2000円でも収入があれば、ちょっとやってみようかなと思う人がでてくるのではないのでしょうか。体験し興味を抱いた人を大切に育てる事が将来的に良い職員の育成につながると思います。より多くの人にこの仕事を知ってもらう事、その中で興味を抱いた人を大切に育てる事が将来につながると思います。
平素の学校生活または部活等を通してボランティア的取り組みや直接現場にかかわれるチャンスを増やしていけると良いと思う。障がいをもった人々も社会の一員であることと、障がいを持つ人の良い面をもっと多くの方々に理解してほしいと思う。
働きやすい様な職場条件である事。給与が安いと思う。
人間性と社会性を向上させる為の取り組みが必要と思われる。学校教育にこれらの内容に時間を割くべきと考える。
ボランティアなどで、どんどん福祉の世界に足を運んでくれる機会をつくり、福祉の世界で働くスタッフの意見を聞いたり利用者との交流を測って貰えると良いと思う。若い方達が希望を持ち働けるよう、福祉の世界の給料面をもっと見直すべきとも思う。
ボランティア
様々な施設等のボランティアや見学会をし、興味関心を持ってもらい、その仕事をする上でのやりがい等を話し合う場などがあれば、良いかなと思います。
自分の経験や体験から、実感を持つことが深い興味につながると思うので、“ボランティアや施設を広く公開し、知ってもらう”など。
高校の授業に取り入れれたりして、福祉の世界を身近な物にしたらどうか？
施設等の見学やふれあう機会を増やすことと、同じ人に参加してもらうことだと思います。一度ではどんな施

<p>設、職種であっても理解は難しいし、素通りすることになります…。福祉の職に就いている方にどういったことをしているか、何が楽しくやりがいがあるか等、話してもらうのも良いのではないのでしょうか。</p>
<p>情報の提供（施設見学等）。</p>
<p>生活面 どんな介護が必要なのか？どんなとり組みをしているのかを体験したり、実際に目で見ることが出来る。行事への参加</p>
<p>福祉先進国であるヨーロッパの国々でどのように福祉業務が行われているのかを見せたり、日本のシステム内で理想とする福祉を行うことがどれだけ困難かを知ることにより、本当にやる気のある方が興味を持ってくれる事が重要だと考えます。人の役に立ちたいという気持ちが根本にあることは大事ですが、今求められている人材は、正当な報いがなかなか得られない実情の中でも自分の理念を持って実務ができる方々でえあると自分は感じています。</p>
<p>ボランティアに参加（福祉ニーズをしってもらう）。職業体験の機会をもつ（福祉の現場をしってもらう）。現職の人の話をきく（どのような職種があるか知る）</p>
<p>いい事も悪いことも含めて、情報提供出来るような機会が必要。悪いことは何故起きるのかを伝えることも重要だと考える。また福祉は人である。人の魅力を伝えていくことが必要。※仕事を辞める離職の大きな理由は福祉の世界が人を育てられない。人に対する仕事なのに、職場の人を思いやれない事が大きいのでは。若手が変わってもムリでは？</p>
<p>興味がある方に対して、体験できるような窓口を設ける。学校教育の中で、その一環として現場からの発表等をきく、みる機会を作る（と良いのではないかと考えます。）</p>
<p>もっと老人とのふれあいが必要だと思います。学校とか交流の場をつくればいいのではないかと思います。</p>
<p>今働いている介護福祉士の意識が高くなり、ボランティア等の受け入れにいていないに対応できるよう、余裕をもった人的配置。</p>
<p>福祉の職場の欠点を無くす</p>
<p>ボランティアなどで実際に現場に行ってみることが一番。そこで興味関心をもつ人もたない人にわかれると思うので。給与は安いけど、お年寄りに関わりたいと思わないとこの業界は大変だと思う。</p>
<p>各高校を訪問して講演したり、交流会など開催する。</p>
<p>高校生より道德等の時間を利用し、障害者等、福祉にかんする事をカリキュラムとして入れたら興味をもつかたが増えると思う</p>
<p>どんどん介護の業界に見せたら良いと思います。汚い仕事もあるけれど、それ以上に素敵な何かを見つけられる事も教えて欲しいと思います。</p>
<p>実習を通し直接現場の実態を感じる事が重要だと考える</p>
<p>施設を訪れ、利用者の方とコミュニケーションをとる機会。</p>
<p>労働環境が悪いイメージがある。きつい、汚い、給料が安い（3K）の改善。</p>
<p>給料アップ</p>
<p>実習。実際に見るのがいいと思います。</p>
<p>高校生が興味を持つ前に大人が興味を持ってくれる様にしなければならないのではないかと？</p>
<p>本当に思いやりを持った人が従事すれば良い。施設見学、体験学習等の充実により、理想と違うといった離職も減少すると思う。正直本人の気持ち次第だと思うので、無理な取り組みは不用と思う。現代、次世代を担う高校生には、まず思いやりを持って欲しい。</p>

授業の一貫として施設見学やボランティア等、体験してみる
障害者や高齢者との交流の機会を増やし偏見を取り除く。待遇や職場環境の改善。
各高校にビデオ（あの笑顔に会えて）を流してもらおう。手紙の様な類いのもの。必ずしも良い事ばかりではない事は伝える。（どの職種についても）
気軽にボランティアができ、良さを知ってもらおう機会を作る
ボランティアを増やし、福祉の世界を近くで見ってもらう
開かれた施設として施設と地域が一体となり、施設が地域を支え、地域が施設を支えていく取り組みをしていく。見学会、研修、ボランティア活動など、積極的に案内していく。また、利用者と学生が共に楽しめる活動を増やしていく。
学生達が身近なところにある高齢者の施設等に気軽に訪問できるような環境作りが必要だと思います。
現在、介護のイメージとして汚い・辛い・給料が低いなど多くのデメリットがあります。中でも、もっとも深刻なのが給料面の低さではないでしょうか。職についても一人暮らしができない、生活が厳しいようでは介護の仕事がしたくても人材は育たなく辞めていかれる方も多くいると思います。次世代を担う高校生がこの仕事を生涯続けていけるような安定した給料が必要だと考えます。
つらく、大変な仕事というイメージが強いので、実際には誰にでも心があればできる仕事という現場を体験してもらおうと思います。利用者さんと触れ合う事で自分にもできる！という自信があれば勇気をだしてこの業界に入ってこれると思います。また、休み、給料などの待遇がしっかりしていて、仕事を教える先輩方がしっかりサポートする姿勢が一番大切だと考えています。
極力安定できる待遇
賃金、勤務時間などの待遇改善。職員同士の相談、悩みなどを気軽に話せる環境づくり。
福祉の良いところを発信する。近い年代からの意見、アドバイスを伝える。実際の現場を見る、体験する場を用意する。
無料で行う体験実習や福祉に関する勉強会を学校やいろんな場所でもっとたくさん行うべき。
これだけメディアで介護員の給料が低いと伝えていると興味を持つ人は少ないのでは？（給料が低いのに、福祉分野の職種はCW だけではないのに、なぜCW しか取り上げられないのでしょうかね…）
<p>&lt;施設自体の意識改善の強化を図る取り組み、やりがいのある職場づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設長、現場職員による事例発表、研修の実施（開くだけではなく、小グループごとの意見交換をすることでよりよい研修になると思う）⇒旅費の支出が厳しい施設も多いので、いろいろな取り組みで成果をあげている施設の情報をホームページ等で照会し参考にしてもらおう。</li> <li>・難しい事とは思いますが、各地域の施設に行き、体験を通してそこの問題点等を出し合い、方法を一緒に考えていく（職員もお客としてではなく、スタッフの一員として受け入れる）取り組みが出来たら、福祉の現状をより理解する事が出来て、どう福祉の中で進みたいかの関心を持つ事がはつきりするのでは…と考えます。（※受け入れ側もレベルアップにつながるのでは…）</li> </ul>
自分の家族に対して、実際（まだ先だが）どのような介護をしていけばいいか、その時が来る前に事前に体験し福祉の世界へ関わっていくような取り組み
福祉従事者の声が届くようにする。机上の福祉と現場の差をうめる。制度が変わりすぎて施設側の体制が整わない。事務処理等、他の仕事に追われ、生活支援なのに支援にゆとりがなく発展もしない。
身近に福祉を必要とする人がいれば、福祉の必要性ややりがい、思い等感じてもらうことが出来ると思いま

す。
インターンシップやボランティアの依頼など、直接福祉の現場に関われるような環境を作る。
実際に関わる機会を作る。
授業に施設やグループホーム等、一日見学等を行うと、興味を持ってくれそうな人も出て来てくれるのではないかと思います。
給与が低いので、家族を養っていく一生の仕事とするのは無理だと思う。正職員の人は利用者の対応のため、利益を上げるために土日もなく、時間も朝早くから夜遅くまでかかる事も多く、半分ボランティア的な部分もある。私は女でパートなのでやっていけるが、自分の子供にはあまりすすめたくないと思う。でも、やりがいがあり、大変ではあるが人と接していく温かみのある仕事なので、ぜひ給与の面、休みの面、人員配置をもっと増やせるようになどなるとよいと思う。
現状はある程度の決意を持たなければ長く仕事を続けることが難しいと思う。まず第1に安定した所得の保障が重要だと思います。第2に精神的な負担の大きい仕事なので、リフレッシュのための休みをきちんととれるようにする。
・職場体験等の福祉の世界に触れる機会を全員に、無理なら半数でもよいので、多くの学生に参加してもらおう。 ・実際に就職の選択肢として考える為に、給与面で他の業種と遜色ないようにする。
小学生、中学生の頃から高齢者や知的障害者の方と関わる機会があればいいと思います。1日よりも1週間続けて施設に行けば、利用者さんの「人間味」にたくさん触れられると思っています。
体験入学、施設見学
自分が年をとったらどういうことをしてもらいたいかを考え、それを入所者の人達にしてあげたいと思う気持ち たくさんのボランティア活動などを通して世代を問わず色々な人との関わりをしてほしいです。福祉の分野だけではなく、人との関わりはたくさんの出会いがあって、悩むことがあっても、その中で支えてくれたり優しくしてくれたり、そんな人の温かさを感じていくことが、『人と出逢う喜び』に繋がると思います。
ボランティアに参加する機会をより増やす。
現役職員の体験談が聞ける機会があれば良いと思う。
施設という所を知ってもらう為、見学など多く取り入れて福祉という物がどういった事を行っている所なのかといった点を知ってもらう事
ボランティアに来てもらう。興味のない子は、ずっと興味を持たないと思う。
病院・福祉施設での現場見学、体験学習など
福祉サービスを利用する方の現状把握（思いなど）が出来る勉強会の開催・福祉事業所の見学や職場体験（総合学習のカリキュラム導入）・ボランティア参加
体験学習やボランティアなどが学校全体で積極的に行ったら良いと思います。
介護の仕事は体力的、精神的にも大変な仕事だと思います。仕事上で色々話しを聞いてくれる上司、同僚が支えになります。そういう環境の整っている職場が増えれば仕事も行いやすくなっていくと思いますので、「こういう職場です」という紹介ができれば良いのではないのでしょうか。
授業の中で福祉を取り入れた方が全員参加する事が出来、それがきっかけで将来につながる可能性が出て来る。→ボランティアだと興味のある学生しか参加しない為
職場体験など。

学校の行事として、施設のイベントに参加をして、利用者に関わる機会を増やす。
給与の確保（高校生といえど、低収入では魅力半減かと）・現場での「良かったこと」「楽しかったこと」の紹介（昨今メディアでは大変さばかりがクローズアップされがちに思うので）
・利用者の方とコミュニケーションをとってもらおう。・地域交流ができる行事を行う。
大変、汚い、給与が安い！というイメージをまずなくして欲しい。『人と人とのつながり』のすばらしさを知ってもらえるように高齢者との交流の場をもっと増やして、高齢者の方々がこれまで歩んできた歴史を知ってもらいたい。
・介護報酬
・職場体験をする。・授業の一環として、認知症サポーター講座などを開催する。
・介護報酬を見直す。まずは経営基盤をきっちりしないと・・・。
ボランティア等を行い、福祉について知ってもらえる機会をつくっていく。
実際に福祉の現場を体験し、自分自身が直ちに福祉の世界を感じとって行けるような体験学習の試み。
もっと施設内でやっていることをオープンにして、パンフレットのようなものが必要。障害者だから、こういう感じかなという頭で考えているものとは、全く別の世界だから。実際、収入は少ないかもしれないが、仕事をしている人もいるということ、仕事して初めてわかったから。
ボランティア。実習
賃金 UP
安定した収入。仕事内容をよりオープンにして情報発信する事により徐々に福祉の世界を理解して貰う事から始める必要が有るのではないのでしょうか。
・施設での体験学習・利用者との交流（行事等への参加）・福祉で働く人との交流
利用者の方との交流機会を持つ。
今の不況の中じゃ無理な気がする。福祉関連の事がテレビで取り上げられても良い話がない。高校生よりも小学生の時から福祉に関わらなければ興味は持てないと思う。
介護は特別なことではなく家族が病気などで倒れたら看病するのと同じで身近にあることだと感じられたから。また、世間での仕事がキツイ、給料も安くて大変だというイメージも強いので、今後、将来の心配、不安がなくなるよう、一般企業社員の方と同じくらいの給料がでるようになれば興味を持つ人も増えるのではないかと思います。
地域の敬老会に参加し、コミュニケーションが取れる場があれば良い。
訪問し、高齢者との交流を図る。
高校生ならば、看護師に準ずる位の賃金や待遇の改善。高齢者運動会等への協力や参加。中学生や小学生の時代に、高齢者に関わる機会やかわいがってもらった体験ができたなら良いのではないかと思います。
「福祉＝ボランティア、良いことをする」という概念が非常に強く印象としてあると思うので、まずは「福祉＝仕事（プロ）」という意識を持つことが働き手として必要だと思う。一般企業では、これがあたり前であることに対し、福祉系はこの印象をぬぐいさることが大切だと思います。
報酬や社会的イメージの向上
給料体制を見直す。
・体験学習 ・交流会

家政婦的な扱いをされないようにする。
ボランティアなどの受け入れを積極的にする。
待遇 up
1. 生活をしていく上での給与面 2. 高齢者とのふれあいの場
仕事に対する正統な給与がもらえないため、給与水準を見直す必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場への同行（若い子は、施設系へ行ってしまうため、もっと在宅の楽しさを知ってもらいたい）</li> <li>・車イス介助する方（介助する立場）</li> <li>・車イス介助される方（介助される立場）の両方を経験し、考えてもらう。実践学習。</li> </ul>
小さい時から、いろんな世代の人々とふれあう機会が必要。たとえば、デイサービスに小学生や中学生があそびに来ることが日常的に出来る、開かれた事業所にする…とか。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業した高校で講義のようなものがある所もあると思うので「福祉の世界で 働いてみて」という題で発表する。</li> <li>・ボランティアの受け入れ 入所者と談話だけでなく、実際、排泄介助をする機会をつくる。</li> <li>・自己管理が出来ていなければ、入所者の健康管理も出来ないということ。</li> </ul>
ボランティア体験で想造して福祉の世界で仕事をしたいと思うと、実際に働きた時の労働のきつさ、業務のきつさ（排泄など）ギャップがあると思う。ボランティアではほとんどコミュニケーションしかないだろうし、そのイメージで仕事してしまうと、すぐにやめたりしてしまう原因になることもあると思う。なので、将来、福祉で働く事を考えているボランティアがいたら、実際に業務を行ってもらう機会も必要だと思う（その反面、楽しい事も実感できるはず）
給料を上げると良いと思います。
地域の老人会や施設に見学に行き、近くで介護という仕事を見て頂く。
障害をもったり、高齢だったり、大変な思いをしているだろう人たちとの関わる場をもっと増やせたらいいと思います。
労働環境の改善
もっといろんな人との交流をして、どんな仕事なのか見てもらい、経験してもらえれば良いかと…?!
高校生ということではなく、小さな時から介護とふれあえる。慰問（できれば授業の一貫として）慣れ親しんでおくと、現実とイメージの違いは解消できるのではないのでしょうか。そのようにしたら、働いた時に離職者が減ると思いますが、同じに自分が働きたくない人はこないと思います。なにが問題かは、離職者の中には、もっと自分に合った仕事が見つかったので辞めた人もいると思うので、本当に働ける人を呼ぶために情報を多く世間に出す（CM）イメージアップと専門性を高めて、スチュワーズとか頑張って勉強しないとできない仕事とか、カッコイイとかのイメージが付くといいと思います。人を呼ぶのでしたら給料を上げてください。
高校生ではなく、幼少時からの交流が必要です。社会が様々な年代の人々で構成されているということが自然と思える心が大切です。高校生は福祉以前に生ということを実感させる赤ちゃんとの交流から始め、高齢者へとつなげていくべきです。
地域との関わりを増やし、学校、施設で交流を持つ場をつくる事によって、福祉の世界を見る機会へ繋がると思う。
人を見る仕事なのに、給与が少ないと、福祉をしても生活していけるのだろうかと思う人は多いと思う。もう少し、現場職員のことを考慮してもらいたい。国から現場職員にお金が出た場合でも、申請しないと



出ないじゃなく、全施設必ず申請して下さいという風にしないと、うちの施設みたく、申請しないところもあるので、そういうところも考えていかないと興味がわかないと思う。
様々な面で当事者の方に接してもらう以外に方法はないと思います。
現場実習の機会をもうけ、理想と現実の差を無くしていく。
テレビ等でやる介護の現場は「つらい、大変、給料が安い、きたない」というイメージがついてしまうような内容である。介護はそれだけではないという事をもっと知ってほしい。なにげなく毎日見るテレビ、ラジオ等を通して、介護の楽しさや、やりがい等をアピール出来るような明るい番組を流してほしい。
福祉の良い所、辛い所、それぞれ教えていったらいいのでは…。あとは興味持つきっかけを何か1つでもあれば、身近な人に聞いたり、ボランティア活動などで参加できるような企画をたてれば良いと思う。
ボランティアに参加することはもちろんであるが、高齢者や障害者など、さまざまな方々とコミュニケーションをとっていくことが大切と考えます。積極的に参加し、知識・技術を吸収すること。
給料を上げる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設開きを進め、より多くの人の福祉施設を見てもらいたい。</li> <li>・政府が福祉に関心を持ち、力を入れていってほしい。</li> </ul>
世界の福祉状況を見て頂いたり、TVでも映されている九死に一生等の出来事を見て頂ければと思います。人それぞれなので、あとは個性を重視していければ良いと思います。私は、福祉から様々な視点や日本を見ることができるようになりました。
学校で福祉科ではなくても、実習、ボランティアという機会を作り、経験することが重要だと思う。特に障害者施設は閉鎖的な部分があるので、老人などちがひ、関わる機会が少ない。
福祉についての講義だけではなく、実際に施設などを訪問し、ふれあうことが大切だと思う。自分で体験してみるのもいいと思う（そのような場を作り、体験してもらう）→車イスに乗る、目をかくし見えない人になってみる etc…
給与を上げる。
ボランティア等の交流の機会
高校生になってから興味を持ってもらおうと言うのではなく、幼少期からの福祉教育が大切ではないでしょうか？高校生にもなれば、福祉に魅力は感じられないと思う。昔の3Kより酷い状況と理解している（給料低い、勤務時間が不規則、休日出勤あたり前）現在の3Kである。
体験の機会を増やす。
介護職は3Kといわれています。やる気をおこすには、お給料がもっと高く設定されれば頑張ると思う。
地域ボランティアに参加するよう促す努力をする。
TVのCM等で福祉の仕事の重要性や、職員が不足していることをながす。
授業に取り入れる機会が多くなるといいと思います。施設の中の様子をビデオなどで見るだけでも、関心ももてると思います。福祉の魅力でもある利用者様の笑顔を見て頂きたいです。
福祉関係の仕事で、生計を立てて行ける様にしないと、次の世代が働きたいとは思わないと思います。思っている以上に仕事の内容は厳しいが、やりがいはある仕事だと思います。
待遇を良くしなければならぬと思います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の行事等でボランティア活動を積極的に取り入る。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関係機関との連携をもっと取り入れる。</li> <li>・給与のアップ</li> </ul>
<p>まず色々な施設を見て、福祉というものを知った方が良い。イメージとは違うかもしれないので。</p>
<p>身近に感じられる様に、ボランティアの機会や魅力を伝えられるスタッフの講演の機会があれば、少しでも興味を持つ人達が増えてくると思う。</p>
<p>給料の問題</p>
<p>ボランティア活動を充実させる事。例えば～施設イベントへの参加、お話しボランティアなど。</p>
<p>体験は見学会…といった事も1つではあると思うが、そういう事よりも大切な事があると思う。私たちが自分達に誇りを持ち、キラキラと仕事をする事。このままでは、どんな取り組みをしても、興味を持ってもらえないと思う。この仕事に夢を持ち、仲間が増える事を願う。</p>
<p>家族を持って、生活出来る位の収入状況であれば、関心の選択肢の1つに入るのでは。</p>
<p>わかりません。</p>
<p>意識の壁を築かないことが全てでは？ 高校生とはいわず、幼少の頃から高齢者、障害者と関わっていかなければ、なかなかこういった世界に興味を持ってもらうことは難しい。</p>
<p>福祉介護の場の必要性を説くこと。世の中にある、さまざまな病気について知ってもらうこと。実際の現場を見てもらう機会を作ること。</p>
<p>メディアをたくさん使って、興味を持たせる。</p>
<p>福祉の世界ほど、現実社会の縮図のような仕事はありません。虐待は自分の住んでいるアパートの隣で行われているくらい身近で、老人福祉は老々介護も孤独死も少子高齢化も唱えられて久しく、障害者福祉は知的障害者を持ち我が子より先に年老いていく事への焦燥感、地域に出たはずの障害者を持った方が、地域によって弾きだされる事もあり、失敗したらやりなおそうという理念もどこ吹く風。だけど、世の中全体がそれに対して目隠しをしています。ニュースは常に人事のように報道します。社会人にとって、福祉は遠い存在と感じてしまっているように思えます。ひとりひとりが現実社会と向き合うことで、福祉の仕事が見えてくると思います。ひとりひとりが現実に行っている事実に痛みを感じることで、福祉の仕事が見えてくると思います。感動話もいらぬ、福祉は大変なんだという愚痴もいらぬ。現場の自慢話もいらぬ。必要なのは自分達の身近にあるリアルな福祉に気付けるようなコンセプトの講演や集会だと思います。大人が見せてこなかった、大人が見えないふりをしている、すぐ隣にある福祉に自ら気付けるようになれば、興味関心は自ずと増すと思います。オトナノセナカがゴドモノチカラに響くようなそんな投げかけが必要なのではないのでしょうか。もう一つ、現実社会の縮図と感じるだけに、若い世代は一度社会に出て、その上で福祉の世界に飛び込むことで、より幅広い視野と多くの視点で福祉の仕事に取り組めるのではないかと思います。高校生等若い世代のみへダイレクトにアプローチするだけでなく、一般企業に勤めている若い世代へのアプローチも又必要ではないかと思えます。</p>
<p>福祉の情報が少ない高校生にはどのような職業があるのか、又、その職に付く為には、何をすれば良いのか（ボランティア、学校の種類等）を聞くチャンスがあれば良いと思う。その方法が施設訪問や授業の中で、福祉従事者の話を聞く等々々だと思う為、その子や学校の様子に適したものを探さなければならないと思います。</p>
<p>現場体験の機会を増やす</p>
<p>「知らない」から「わからない」「わからない」から「こわい」と思う。なので、施設に積極的なボランティアの受けい</p>

<p>れや「知る機会」をつくる必要があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の人の話をきく機会をつくる。</li> <li>・高齢者や障害者に対する正しい知識をえる機会をつくる。</li> </ul>
<p>今の学生と呼ばれる世代の方達に対してではなく、その親の世代の方達に現状を知ってもらわなければならないと思います。今の学生にはインターンシップなども含め、様々な職種を目で見る機会はありません。しかし、社会に出ると、自らの意思がなければ、そのような機会はありません。知らなくて先入観だけで捉えられている福祉の世界がまだ根強いように思います。結果、子供達、社会の方達からの印象として良い物につながらないのではないかと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の一環で、老人ホームや障害者施設に見学に行ったり、講演を聞くなどが必要があると思う。</li> <li>・まず、福祉がどういうものなかわかる機会が必要。</li> </ul>
<p>施設実習、就職ガイダンス等でのアピール etc.</p>
<p>実習を行うなら、より長い期間の方が良い。事務作業ばかりでなく、多くの時間を利用者様と触れ合うことが大事だと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の方々と継続的に直接関わる機会を設ける取り組み。</li> <li>・様々な種類の施設やサービスを見学したり、体験する取り組み。</li> <li>・自分の力が役立つ、必要とされると感じられる機会をつくる取り組み。</li> <li>・労働条件の改善をより進め、低収入、きつい仕事、汚い仕事というイメージを払拭する取り組み。</li> </ul>
<p>福祉の現状を、ビデオにとって見てもらい、実際に体験してもらう。</p>
<p>ボランティア等の参加の機会を増やす。</p>
<p>次世代を担う人たちが、福祉に興味を持つには、高校生からじゃ遅いと思う。小さい頃から障害を持った方、お年寄りと接する事が大事だと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に対する理解促進</li> <li>・当事者とキャンプをする、遠足に行く、レクリエーションをする、色々な機会をもうけ、情報を発信する。経験を増やす。何でもいいと思うが、とにかく入口に立っている人を増やさなければ、中に入ってくる人は少ない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の案内を出す。</li> <li>・職業体験。 ・何か福祉に関するプロモーションビデオを作る。</li> </ul>
<p>福祉現場を体験出来る機会を設けて、広く知ってもらう。</p>
<p>利用者の思っている事に常に耳をかたむけ、やってほしいと思われることはしていくべき。たくさんの人たちと交流をもつと良いと思う。交流の場をたくさんつくってほしい。</p>
<p>ボランティア、行事等のアピール。個々の気持ちの問題。</p>
<p>施設体験はもちろん、身近に介護が必要な方がいれば、手伝ったり、その現場を見て体験してみる。</p>
<p>現場を体験する機会を増やし、労働環境を改善する。</p>
<p>福祉施設への来訪など福祉にふれあう機会を持つ事。また、高校生だけではなく、自分がそうだったように、もっと義務教育の段階で福祉についての知識を深めていく必要があるのではないかと？</p>
<p>3Kのイメージをなくすような取り組み。仕事内容に見合った給与。</p>
<p>今のままでも関心をもってくれると思います。</p>
<p>高校の科目に取り入れる。</p>

介護職の悪い面がよく報道されているが、福祉の仕事のやりがいや、お年寄りの笑顔をもっと見てもらいたいと思う。認知症をもっと知ってもらい、もし家族が認知症になったら…等考えてもらい、その上で介護の仕事がどれだけ家族、本人の助けになるのかを知ってもらいたい。
興味のある人はおのずと福祉の世界に入って来ると思う。全く興味のない人に対して、他人が一生懸命働きかけをして、あえて興味を持ってもらう必要性はないと思う。
福祉の世界に高齢者だけではなく、障害者、地域といった様々な活躍の場がある事を伝えていく。生活の将来性の保障が進むと、保護者としても安心へつながるのではないかな？
学校に出向き、講演会を行い、業務内容をアピールする。
実際に当事者と関わる機会があると良い。
現在の雇用環境を向上させることで、必然的に離職率は減少するものと考えられる。
より詳しい福祉に関わる情報を提供し、現場で働いている人々の生の言葉を聞く機会を作る。
様々な視点から世の中を見て、自分の小ささに気が付いてほしい。そうすることで、自分に何ができるかがわかる。
職場環境の充実。給与、休みなど
当事業所では、市内の小、中学校での「総合的な学習の時間」にピアカウンセラー中心に、自らの体験を、高学年対象に講演しています（その後の車いす体験、手話体験有り）。毎年、学校側からの依頼で、市の社会福祉協議会を通じて、年間のべ20回程度ですが、そういう機会を通じて身近に体験してもらうことで、興味を持ってもらうのも1つかと思います。
「福祉」と一言で言っても、いろんな仕事分野があることを伝える機会「高校生からすると、知る機会」が不足しているのでは。
今の給与や待遇なら、オススメできない。
現場実習
・ボランティアなど的高齢者との関わりを多く取り入れ、魅力を教える。・高齢化という現状を教える。
利用者の生活の向上を目指したり、サービスの質を高めたりする現場が生活苦だったり、余暇も充実できない現状では、興味関心はわかないと思われます。福祉の現場はモチベーションに頼りすぎています。仕事の内容（やりがい）のアピールとともに待遇面の改善が必要に思われます。
給与面での改善。トップだけがもうかる仕組みを変えるべき。収入に結びつく事業や研修、交流会であればよいと思いますが、中途半端な取り組みであれば、その活動資金を給与に反映した方がよいと思われる。国が福祉従事者を守る仕組みを作らないと、若者もだれもが、福祉を仕事にしなくなると思われる。
ボランティア活動等で、少しでも利用者の偏見を取り除き、利用者と直接接することで、福祉の世界に興味関心がわいてくるのではと考えます。
ボランティアの参加がしやすい環境作り。
対人間の為、肉体的にも精神的にも疲れる事が多い為、具体的な案はありませんが、金銭、休養面が改善されれば良いのではないかと思います。
体験してもらおうのいいと思う
高齢者や障害者と関わる機会が少ないと思うので、もっと増やすべきだと思う。
・介護現場を体験してもらおう。・高齢者と触れ合う機会を増やす。

イベントにボランティアとして参加し、利用者とコミュニケーションをとり、楽しめる様な工夫をする。
大変な所だけじゃなく、やりがいのある所を TV で放送する。
責任を持って行動して欲しい。
新しい人材の目を向けるには、現在の福祉の環境が充実していかなければ難しい。利用者本位でいくことが、第一であり理想ではあるが、現状はそのために職員の側の負担を増加させている（低賃金、長時間の労働等）。職員の側の人生も充実していけるように、法改正（報酬の改定等が必要）が必要と考える。
実際の支援や当事者との交流にたくさん参加できるような機会、スタッフ自身が楽しんで仕事をしている姿を見せる。
間接的ではなく、人と人が顔を合わせられるような直接的なボランティア活動へ参加して、高齢者、障害者、児童等様々な人々と接してみとほしいと思います。
・福祉関係の実習、交流 ・福祉専門職のスキルアップと身分保障の向上
福祉サービスを利用している利用者との関わりの機会。
自分自身そうでしたが、ボランティア等、実際にふれあう場面が最も興味をもつきっかけになり易いと思います。「福祉は給与が低い、きつい」ということで、福祉系の大学に進学しても、福祉の世界を選ばない学生も増えていることもありますし、従業員の処遇が改善され、「長く働ける仕事」へと変わっていくことが、最も重要ではないかと思います。
授業に福祉心理等をとり入れるとか、専門の学科をつくる。英語とかより身近と思える感じで。 職業体験??
「重労働・休みが少ない・職員の犠牲のもと成り立っている」←イメージをかえる。専門職であるという自覚と誇りをもって、仕事に取り組める様、安定した給与、そして技術を高める取り組みが必要。
安定した職業、収入である事。ボランティアの活動、受け入れ、インターネット、ホームページで明るく、詳しく紹介する。地域の人に感心を持ってもらう事。老人訪問など、雪ハネ、雑草取りなどで交流を深めてほしい。
高校生活の中に、施設などへ行き、一緒にお話をしたり、車イスを移動したりなどと、現場へ行く機会を増やして、体験するとういと思います。
ボランティアなど福祉に関わる機会を増やすこと
介護福祉とは何か、知る機会を増える様に講演等があれば良いと思う。
良い所、悪い所を誇張する事なく、身近な例えにする。
なぜ高校生なのでしょう?小学生やもっと小さい子どもたちが、障害者や認知症の高齢者たちと関わる機会をたくさん作り、小さなころから、おかしな偏見を持たない人間を育てることが大事だと思います。
ボランティア受け入れの機会を多くする。
どんな施設があり、どんな仕事内容で、その職業に就くには資格は何か必要なのか、詳しく知る事が出来る授業があると良いと思う（1回や2回ではなく、沢山設けられると良いと思う）。
福祉の職場で働く人の経験談が聞ける機会と、現場を見学できる機会があると良いと思う。
現場の見学及び体験の機会をつくる。福祉とはどういった分野なのかを知る。実際現場で働いている職員の声を聞く。
福祉的なケアを必要としている人達と積極的に関わる機会。相手のことを知らなければ、興味をもてないと

思う。
福祉施設との交流のオープン化。それに基づいた教育。
福祉に限られた人のためのものではなく、誰もが福祉と繋がっていることを実感できるように、高校生が異世代と関わる機会を作ることや、自分の生活と福祉との関わりを考えてみることで、福祉とは何かを学ぶ取り組みが必要。
社会的や学校の授業内で、年齢問わず異世代交流やボランティア体験で、多くの人に触れる事（地域の施設訪問など）。
・職場体験 ・見学 ・高校生のボランティア活動を授業として。
・安定した収入 ・充実した福利厚生 ・3Kのイメージの払拭
「福祉」と特化するのではなく、高校生自身が家族もいずれ必ず携わる事であるということ、多くの機会に導入し、体験してもらう。
・インターンシップの実施 ・ボランティア体験
給与をもう少し上げる。
仕事の内容をよく理解してもらえるような機会を増やす。
福祉というものが、どういう事かわかりやすい説明や、場を設けられたらいいと思います。
福祉の世界には、高齢者、障害者、児童など様々な分野があり、社会の中で必要とされている仕事を伝えていく。また、最近では、特に高齢者福祉の仕事の給与が低い等、マイナスの部分が増え、プラスの部分が増える事が多いが、利用者に関わる中で得られる喜び等、プラスの部分をしっかりと伝えていく。
たくさん利用者様と関わって下さい。
現場をみてもらう機会をふやしていくしかないと思います。
夢や理想だけでなく、現実を伝える。これから高齢者が増えてゆく状況を考えるならば、ニーズは多くある。この先、福祉の職場環境は充実してゆくと思う。
介護・福祉全般的に言えると思いますが、給与面で、もっと安定した生活と希望が持てる環境整備が必要ではないでしょうか？それと職場の福利厚生面も大きな影響をもつと思います。
授業の一環で、福祉について学んでもらう。
具体的方法は思い浮かばないが、福祉の世界で「生き生き」としている障害者や高齢者、働いている職員との関わりや、垣間見る機会があればと思います。例えばホームステイ・ボランティア活動
高齢者福祉の現状を見てもらう。人間の老いについて知識を深める。
実際に施設へ行き、利用者の方たちと関わりを持つことが、一番必要なことだと思います。
授業の一環に施設見学や、高齢者、障害者との交流の機会を作ると良いと思う。そこから興味を持つ方もいるだろうし、もともと興味を持っていた方にとっては、良い意味でも悪い意味でも、将来的な答えが出ると思う。
給与の平均水準を上げる（給料が低いというイメージが強いため、最初から）
学校の授業で福祉施設のボランティア活動を行ったりし、高齢者、障害者と関わりを持つ機会をつくる。
授業の一貫で、高齢者と関わる機会を設け、理想論だけではなく、現状を知ってもらう必要があると思います。
社会の実態把握をするための積極的な体験学習。

給与面の将来性のアピール
もっと福祉の仕事を体感できる機会を作っていくことが大切と感じます。また、ボランティア価値道も出来るだけ経験していけるようにして、興味を持つ機会を作っていくと良いと思います。学校のカリキュラムに組み入れて、出来るだけ多くの方に体験してもらってはどうかと思います。ボランティアは自ら進んでやることも大切だとは感じますが、これをきっかけにして、福祉分野に関心が向けば、それはそれで良いと思います。
明るい話題。給与アップ
ボランティア体験の推進。
収入を安定させる。環境を整えば、後は本人次第なので。
好きならやればいいし、見学しに来ればいいと思う。
ボランティア活動への参加。
交流会をたくさんする事や、高校生に話をする事。福祉というものがどのようなものなのかを知ってもらうのも大切だが、ほんの少しでもふれあってもらうのが一番良いと思う。あらたまったものじゃなく、話をするだけでも良い。それをするためには、交流会（一緒に食事する事やゲーム）にひらき、楽しむ事が良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず高齢者、障害者と触れ合う機会を作ること（課外授業など）。そこから興味を持つか持たないかは個人次第であるが、きっかけになると思う。</li> <li>・低賃金・重労働と世間が騒ぎすぎる。現実ではあるが、そこを政府が早く改善しないと、触れ合う機会をつくっても、魅力が半減してしまう。将来につながらないと思う。</li> </ul>
交流会や職場体験等
安定感と確実に収入が増える（将来の夢や現実など、計画がたたないから）。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人または夫婦で人並み程度に過ごしていける給料。</li> <li>・学校の授業等で福祉を知る機会を作る。</li> </ul>
人並みに暮らせる給与が必要だと思います。
技術は必要、大事だと思います。が、知識がなければできない仕事だと思います。忍耐力も必要で、人と人との関係を知る人でなければ、できない仕事だと思います。
ボランティアなどが気軽に行える環境を作る。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 若者が生活出来る最低賃金の他に、手当も必要と思います。働いていて、生活に希望がなければ、働く喜びにはつながりません。</li> <li>2. 福利厚生、職場の人間関係が安定している事も必要です。そしてスキルアップする機会を多くする事かと思っています。</li> </ol>
給与を上げて、誰もが介護（福祉）の世界に興味を持てるようにする。ボーナス、暖房手当などをもらえるようにして欲しい。
学校にボランティアの呼びかけをお願いすると共に、労働に見合う給料が高くないときびしいと思います。
現場に入る。・ボランティア ・郊外学習 教科書や座学で福祉に興味を持つことは難しいと思います。
賃金の引き上げ。社会貢献の意識向上（道徳教育）
具体例を出して、その中で福祉職がどう関わっているのかを伝える場が必要だと思います。また、実際に利用者等とふれ合う機会も必要。
ボランティアとして、どんどん福祉の仕事を身に來てもらえれば、興味を持たれる方たちも出てくるのではないかと思います。

<p>「興味を持つ」という答えにはなっていませんが、業務環境改善が必要だと思います。福祉の仕事に魅力を感じていても、仕事内容（業務状況）や低賃金による生活困難などの話をきき、仕事として選ばない（選ばない）例を見聞きしているので。まずは、魅力ある業務環境を作り、それを伝えていければと思います。</p>
<p>高齢者は今後確実に増えてくる為、若い世代の我々が担っていかなければならない分野だと思われるので、福祉が高齢者にとっても、担い手にとって良い物になる様、待遇面での改善が強く望まれると思う。（若い人には福祉に対するイメージが悪すぎると思うので）</p>
<p>介護に対するイメージを払拭する必要がある。福祉というものを知って頂く為に、もっと社会へアピールしていく必要がある。</p>
<p>仕事を知ってもらう。利用者と触れ合う機会もつくる。社会全体のイメージが福祉は「大変」「給料が低い」等があるので、もう少し明るいイメージをもってもらえるよう、改革を起こしてほしいです。それはすぐには難しいと思うので、高校生が職業の選択肢の1つとしてもらえるよう、若い福祉の担い手と話を、交流する機会をつくる等、福祉をアピールできる場や報道が必要だと思います。</p>
<p>メディアでは暗い報道（給料が安い等）ばかりなので、もっと明るい報道も必要だと思う。</p>
<p>福祉にたずさわる職員が、年上、年下関係なく、考えや日々の悩みを話し合える場が必要である。</p>
<p>・ボランティアを行う機会を増やしていく。・授業での講師を行う</p>
<p>福祉が特別な仕事、特別な人達が携わる仕事ではなく、誰にでも取り組める、自分にもできることがあるという思いや、経験がもたら良いのではないかと思います、なかなか具体的なものが思いつきません…。</p>
<p>福祉施設の見学であったり、交流の場を授業等で作ってもらって、実際に体験してもらう。機会があれば実習などにも参加してもらい、実際の業務を見てもらう。</p>
<p>・人間関係を良くする・上司がしっかりして行く事          ・出来ない人を簡単に見捨てないで、出来るように育てる事          ・冗談が言える職場にする事 ・仲間外れにしない事 ・会社の事よりスタッフを信用させる          ・試用期間を言うのをやめて、1年間かけて育てていく</p>
<p>障害を持つ方との交流ができる機会、福祉について考える勉強会などあるとよいと思う。</p>
<p>福祉は誰もがかわるものだとことを理解してもらった上で、福祉にかかわることが、その人の人生にもかかわることのできる職種なのだと知ってもらいたい。その中に子どもから高齢者までいて、自分は何の分野にあうのか考える場があってもいいと思う。</p>
<p>底辺の仕事と思われがちなのと、3K（汚い、きつい、給料安い）というのが、現時点で介護は思われていると思っています。ADL 等の人間としての能力の低下ばかりしか目につかないと思われがちなのかもしれませんが、認知症に限り、そんな事もないという事をもっと伝えていく必要があると思います。どんな言葉、接し方で、その人がクリアになるのかわからない為、それを探しだし、新たな発見をした時の喜びは、他の仕事ではあじわえないと思います。今の現場では、自分自身も利用者スタッフと切磋琢磨出来ており、私自身も見習うべき所もたくさんあり、自分自身の向上もはかれるので、そういう所をアピールしていけばいいと思います。</p>
<p>授業の中で、福祉の仕事を体験する機会があると良いと思います。</p>
<p>福祉のイメージを低賃金でやりがいの無い仕事だと思われぬように、低賃金ではあるけれど、こんなにも人として素直に生活ができる仕事は無いという事を伝えたい。</p>
<p>学校で福祉の現場を体験できるような、インターンシップのようなものを行うとよいのではないだろうか。</p>



<p>いろんなボランティアに参加してほしい。</p>
<p>実際に福祉の世界に携わる年齢の近い若い人との交流。</p>
<p>色々な施設を見学したり、実際に働いている職員を学校に招き、話しをして頂しなど取り組みをしていくのが大切ではないかと思います。</p>
<p>施設を知ってもらう。見学等の取り組みが必要だと考えます。</p>
<p>施設でのボランティア活動。施設からボランティア（体験）の募集→福祉を知ってもらう</p>
<p>福祉職に現実的の希望がもてるような生活保障。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に関わる TV 番組が、もっと増えてくれば、知るきっかけになる。</li> <li>・働いている人達の声が、なかなか伝えていく機会がないので、どんな仕事内容なのか伝える為、高校で後援会を開く。</li> <li>・職業体験を行っている高校に、声かけ、たくさんの高校の生徒に体験してもらう。</li> </ul>
<p>すみませんが、はっきりと言わせて頂きます。お金と時間、考え方が合うか合わないか、やる気だと思います。その為の取り組みが必要だと思いますが、具体的には国が決める事なので、あまりよくわかりません。</p>
<p>授業にボランティアか実習を取り入れると、興味関心を持てると思う。</p>
<p>介護職が専門職として認められ、若い人も単身でも生活ができるように、給与面検討する必要があると思う。</p>
<p>私は高校時代に授業の中にボランティアがあり、施設に行くきっかけがあったので、福祉に興味を持つ事が出来たので、福祉に関わるきっかけがあれば、少しでも関心を持つ事が出来るのではないかと思います。</p>
<p>現場を実際に感じる</p>
<p>自分以外の人物の嫌な部分を嫌というほどみることになる。自分の事もできない、あまえた状態の生活で、福祉を実施するのは無理である。国をあげて若者に対し、きびしい精神論をたたきこむ必要があると考える。</p>
<p>包み隠さず福祉の現状を知ってもらうべき。福祉という職場に入って、理想と現実の違いになやまず、本当に心から福祉を目指している人達を増やせるよう、もっとたくさんメディアを使って、アピールして、福祉という職をメジャーにしていく。</p>
<p>仕事がキツイ、汚い、給料が安いというイメージを変える。</p>
<p>見学を行う。</p>
<p>給与の平均水準を上げる（給料が低いというイメージが強いため、最初から）見直し。地域との交流で、学生達ともっと交流してみてもいい？福祉の学習を授業ですてみる？</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想ではなく、現実を見て学んでいく事、体験していく事が必要だと考える。</li> <li>・給与の見直し。働こうとする気ができれば、人も集まるし、職場も働く人を選べ、結果として介護の向上につながる。</li> </ul>
<p>知る機会を増やすべきだと思います。現場の様子などを直接見てもらう事等が必要だと思います。</p>
<p>介護や看護は、内面が大切なので、高校などで各施設（老人、保育、障害者）などを実習し、給与面があるかを確認する場を作る。</p>
<p>福祉の現場を実際に見て、体験できる場を作る。授業の中に福祉に関する事を取り入れる。</p>
<p>理想ばかりではなく、実際の現場の意見を伝えるべき。実際に働いてからイメージと違うと言ってやめられるより、実際に現場はこういうものなんだと理解してから、働いてもらうほうが良いと思う。</p>

福祉施設等へ行き、利用者の方と接する機会を多く持つ。
福祉だけではないのだが、将来と自分の行きたい仕事についてよく考える機会を学生のうちに持って欲しい。自分について見つめ直すこと。
地域の障害者、老人、子どもたちとの交流をする機会が多く持てるといい。偏見や差別をなくす為にも、親世代にも理解を深めてもらうことが重要。
もっと高校生の生活の中に「福祉」とふれ合える時間があればいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の授業に福祉についてとり入れてもらう。</li> <li>・高校生と福祉施設（利用者も含め）交流の機会を設ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな考えをもって実践している人々の話をきいてもらったり、当事者（クライアント）の話をきいてもらうこと。</li> <li>・就労継続事業所や実際に障害者が働いている場所へ行き、同じことを行ってもら（障害の人が持つ特性を知ったり、気付いてもらう）</li> </ul>
私は毎日、理学療法士と言う治療を通して、障害のあるお子さんたちと関わっているので、実は医療の立場で仕事をしていると思っているが、福祉色も強いとも思う。いつも自分はよくわからない立場だと思う。しかし、医療とか関係なく、自分たちが関わることで、障害などがあり、困っている人たちが、より良く生活できるようになる場面、時間を高校生たち共有したり、実感できるような環境があれば、やりがいがいはいは伝わると思います。まともがなくてすみません。
福祉の仕事がどれだけ大切な事か、大変な仕事だけど、人に感謝される事が魅力的だと気付かせ、ボランティア活動を通じて関心を持たせる。
国として労働条件の見直しと改善
体験学習
体験学習 福祉従事者による講義
給料 up するための法改善。中学、高校授業の中らに就きに1度くらい体験できるようにする。福祉 = 大変というイメージが強いと思うので…。離職率も高いこともあるため、ちゃんと指導して育てられる人材の育成が重要だと思います。
給料が上がればよいと思う
何でも経験をさせる、という機会を作っていく（経験が一番大切だと思います。）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い労働環境を作ること。現場の人間が働きやすい、また、働き続けたいと感じるような人間関係を作ることもちろん大切ですが、それ以上に安心して自分の将来設計ができるような労働（雇用）条件が必要だと思います。賃金や休日などの保障によって、安心して働くことができる労働環境であると良いと思います。</li> <li>・福祉の世界が、この社会でどれ程「生産的メリットを含んでいるか。重要な課題であるか」を社会全体で「知る」事。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージアップの向上 テレビや雑誌等で暗い物ばかりなので、なにかイメージアップを計れる物があれば</li> <li>・福祉、介護現場の安定性 給与休みの安定性。働く人が増えればそれだけかわる人も増え、興味関心を持つ人が多くなっていくのでは</li> </ul>
自分の損得だけでは人生が豊かにはならないと思います。今現在は人生の中のほんの一部で、長い自分の人生を考えた時には、いかに豊かに優しい人間でいられたらいいなあと私は追求したいと思います。自分が何の職につきたいか?を考える前に、どんな人になりたいか、どんな人でありたいかを考える場面をもっと!!昔話し

を聞く事もとっても大切。そういう場面をもっと!!
福祉の仕事が、どのような内容なのか、具体的に知る機会を持つこと。給料が安いことや、排泄介助があり、「大変な仕事」ということは認識されているが、他にどんなことをするのかあまり知られてないと思う。どれだけ大変な仕事かというより、どれだけ必要とされている仕事なのかを、明確にすれば、興味関心を得られると思う。
高校生といわず、中学生のうちから、高齢者や障害者等もっともっと関わられるよう授業等に取り込む等、施設やデイサービス等積極的に見れる環境も必要だと思います。
体験実習など
小学校では、授業の中で介護施設の訪問や、車イス体験を行っていますが、小、中、高と一貫性を通して、取り組みが必要だと思います。1回や2回では興味をもたないです。
一般企業の賃金
高齢者との交流の機会を増やす。
施設等で行われている行事へのボランティアとしての参加。高齢者との交流が多く出来る環境作り（施設に高校生が訪問したり）
施設をもっと開放的に、ボランティア受け入れる。お年寄りや、障害を持つ方と関わりがもてるような場所作り。
仕事内容と給料が見合っていない点で興味がなくなると思います。（ニュース等のテレビでも言っている事なので）又、もっと現場を体験する機会があれば、関心を持つと思います。
・実習の受け入れ ・体験入学 ・現場を生で見てもらおうが一番だと思う。
・授業で福祉の事を取り入れる ・福祉系の学校に行くことで国などから、免除や補助を受けられる。又、福祉の仕事について場合返さなくても良いなど。
高校生だと、進路が決まってそうなので、中学生くらいの方達に施設の見学等の実施をしてみたら良いと思う。TV 番組やニュース等では、施設の悪い所（虐待や職員不足）等が多いので、良い所を見て欲しい。自分が高卒で入ったので、思ったのですが、現状の把握ができていないで入ったので、もっと現状を色々な人達に知ってもらわなければならないと思います。
業務体験
・具体的な仕事内容を知ってもらう。 ・ボランティア等での現場体験
福祉を学ぶ事は、必要ない事と思います。しかし「学ぶ」というのは学業だけではないと思います。福祉の仕事を行う中で、学ぶ事は沢山できます。順番が違って良い。教科書には書いていない魅力は福祉の世界には沢山あります。外から見るイメージにとらわれず、まず中を見てほしいと思います。
・ボランティア等、ふれあう機会を多くもつ。 ・イベント時、何かお願いする等。
学校の授業等を通して、福祉の現場にふれる機会を設ける。
安月給、肉体労働等のイメージが若い世代には強いので、まず、そこを払拭していかなければならないと思う。
・福祉の世界を知る機会を増やす。施設見学や実習など、就職に取り入れれたり、単位修得の1つとするなど。

・障害を持つ方との交流の場を持つ。
高校生になってからではなく、幼稚園や保育所等幼少期より、障害者に触れたり、学ぶ機会を国はつくるべき。
福祉の現状のビデオを見せるなど
ボランティア活動の取り組み。
大変な仕事だが、やりがいのある仕事である事を伝えて行く。（利用者の方達と生活する中で、喜んでもらえたり、利用者の方や家族の方の笑顔が見られた時に、職員もうれしい気持ちになる事）
授業の一環として、一緒にレク活動など、ふれあう機会を普通科などの学校でも取り入れていく。
今の高校生などの学生にボランティアに参加するのは、困難であると思う。そうであれば福祉従事者や、当時従事者の方が、積極的に学生さんなどと交流を行い、少しずつ困難ではあるが、一歩前進するのではないかと自分は思う。
若者を育てる技術を持つ上司の育成。高校の授業や大学の講義で、福祉に関する科目を必須にする。
・利用者として少しでも関わる機会が必要であると思う。 ・上司がしっかりしており、頼りになる人材が多いことが理想であり、興味を持ちやすい環境作りが必要である。
経験ボランティア活動
堅いイメージ（つらい、苦しい、汚い）等のイメージを払拭出来る様な取り組みが必要だと思います。
・離職率の高さや、低賃金労働の問題改善の取り組み ・「きつい」や「大変」等の根本的な福祉職のイメージアップ
ニュース等で、給料が低いなど、悪い話題を取り上げすぎ。
・授業に加える（体験・交流 etc） ・福祉に関する TV、ドラマの放送
学校や施設などから、声をかけあい、行事など（お互いの）に参加したり、お年寄りの昔の話を学生に聞いてもらう時間を使ったり、交流を持てたらと思います。
少人数での施設訪問など。
高齢者との交流が増えると、良いのではないかと思います。その後でスタッフと話しができる場をもうけ、福祉の仕事について話し合えると良いのでは？
・社会保障（やりがいがあっても、将来の見通しがつかない程の低賃金だと、なり手はいません。実際、求人だとしてもなかなか求人がありません。引く手あまたなんですけど…） ・地域での共同生活できる場所の拡充～核家族化がすすみ、高齢者と関わる事がほとんどないと思います。昔ながらの長屋ではありませんが、シェアハウスのように、各世代が隔てなく、関わり、交流を持つ場が必要 ・学校でのボランティア活動に単位数をつける～始めは「単位」とか「内申点」とかのためにことおもって参加していても、何か見いだすものを見つけてくれるかも。まずそれには、魅力ある職場作りを行わなければいけません。
給料の見直し
給料をあげる
支援センター等でのボランティアの機会を学校と連携して設けていく
従事者の生の声を聞いてもらえること。現場を体験してもらうこと。
プロフェッショナルの育成。誇れる仕事

<p>高校生の頃だけでなく、幼い頃から地域で障害者や高齢者と共に過ごす時間をモチベーション、普段から関わりをもてるようになること。給与面の向上と地位の確立ができるの良いかと思います。</p>
<p>実際に利用者さんと触れ合うこと、職員の支援の様子を見ること、職員に支援の意図などを教えてもらうこと。利用者さんの様子や支援の様子をビデオで見る。</p>
<p>福祉従事者が、志をもってチャレンジしながらも進んでいく仕事への思いを見たり、体験したり、話したりすることが大切だと思う。実習（見学）を通してスタッフと話したり、スタッフ（現場）が学校の講義に出るなども有効かと思う。実習等を受ける事業所スタッフにも「伝える」という場の経験になる。</p>
<p>現場見学はしない方が良い。逆に現実の良い所だけを話してあげたら、少しは興味が湧くかもしれない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給料を上げる</li> <li>・福祉の必要性を伝える</li> <li>・休日ボランティアへの参加をすすめる。</li> </ul>
<p>親などを大切にす気持ちからだと思う。</p>
<p>現場で一緒に仕事などする。</p>
<p>この仕事は明るい仕事であることを理解して頂く必要がある。</p>
<p>福祉＝奉仕といったイメージが福祉から若者を遠ざける一要因であると考えられる。福祉＝サービス、権利といったイメージを持たせるべきである。</p>
<p>対人サービスの楽しさを知る機会が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・向き、不向きがわかる体験の機会を作る。</li> <li>・嫌々ボランティア等させても、マイナスイメージしか持てないのでは？</li> <li>・しっかりした給与体系がないと気持ちだけでは続けていけないと思う。</li> </ul>
<p>無理に興味を与えても意味がないかも…と思います。自分から興味関心を自然に抱けた人が福祉学校、その後の仕事をやめずに従事できると思います。どういう職種でどういう仕事をしているのかを正直に話し、伝える事ができれば良いのではないのでしょうか？</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの機会を設け、福祉の現場を体験してもらう機会を作る</li> <li>・安定した給与体制の設定をする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設の体験会</li> <li>・ボランティア活動などを参加しやすくする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与面の改善</li> <li>・労働条件（サービス残業も必要だが、多くなりがち）対人援助を楽しみと感じてもらえるような、環境づくり（職場内外において）→現任の方が働く姿が全面に出るように、又、利用している方にとって、役だっていることが実感してもらえること。</li> <li>・マンガから</li> </ul>
<p>福祉現場の見学、ボランティア等での交流、経験。</p>
<p>利用者さんとの触れ合う機会を作る。施設のイベントで招待する等、利用者さんを知ってもらうことが大切。自分の持っているイメージが変わって興味を持つと思います。後は現実として、収入面もあると思います。</p>
<p>福祉系大学等への入学のきっかけはほとんどが将来のため、世間体のために通っている学生という印象があります。重たい内容のTVニュースばかり。福祉の世界に行きたいと思えるような機会が高校生活の中では得られない要素がないように思います。「大変そう」「人の役に立つ仕事には就きたいけど」と漠然とした考えしか入っていないこの時点での関心・魅力はわからないと思います。何に困っているのか、どう進めていこうとしているのか、良くなってる所はあるのか、兆しはあるのか、分かり易く現実的に感じられる機会があればと思います。</p>
<p>直接現場を見学したり、実際に働いている人と交流する機会を学校で設定してあげる。</p>
<p>先ずは言葉ではなく、姿を見せる。働く事の喜びを見て、感じ取ってもらうようにする。</p>

地域内での施設訪問やボランティア活動
とりえず海外からの介護員はやめ、内需拡大、賃金アップ。ワーキングプアになる為に働く奴はいないと思う。やりがいがあっても生活出来ない。
もっと給与をあげればいいと思います。
給与面の向上。夜勤体の時間の短縮など
給与の安定と給与の見直しが必要だと思います。
半端な気持ちではできない仕事なので、良き人材を集める為には、一定の期間を設けた実習や、仕事の話の話を聞くだけでなく、実際に利用者さんとふれ合う機会が多くあると良いのではないのでしょうか。
福祉関係の研修や体験（本人の状況に即した体験 etc）はもちろんの事、興味が持てるような配慮が必要だと思います。本人の努力が報われる枠組み作りや福祉現場とは?というわからない状況をわかるようにする事が、理解をすすめて、興味をもてる仕事に成長していけると思う。
・障害者や高齢者と実際に触れ合う場を作る。 ・見学や実習などを行う。
広い心を持つ事
現在、どの高校などにおいても、インターンシップを取り入れていると思うが、地域のグループホームや施設での体験をすることにより、福祉の必要性や人と人の関わりが、どれ程必要であるか、人と人とのつながりが現在の社会に欠けているのかということを感じる体験が必要と思う。その為に福祉の世界を体験することが必要である。
高校生とは言わず、保育所の頃からお年寄りや体の不自由な方たちと頻りに交流を持ち、身近な存在になしてほしいです。身近な存在になれば、自然に福祉の世界に興味を持ってくれると思います。
福祉関係の職業に就職を希望される高校生は「一日体験職員」として、利用者とのコミュニケーションをとったり、従業員の働きぶりを見てもらうようにする。
とくにないです。今の介護の現場を見学、又は、体験して頂き、本当に心からこの仕事がしたいと思う人だけ、介護の仕事につけば良いと思います。
・高校の授業で福祉施設を訪問する機会や交流する機会を設ける ・高校生や若者に人気のある芸能人をつかって CM をつくる。
体験学習をしたり、慰問をさせる
興味を魅力的な形にするしかないと思う。
自然に触れる事。
福祉利用者が学校行事へ訪問等
高齢者との関わりを持てるボランティア活動等（増やす）
・給料が低いので、もう少し高くしてほしい。 ・施設内での行事など、幅広く知る機会があるといい。
高校生だけではなく、小学生の低学年くらいから施設の入居者さん達と交流する機会を設けたり、学校の授業で認知症について学ぶ機会を作る。
給与、休暇の充実化
福祉事業への社会見学を充実したり、もしくは実習なども取り組むなど、人手不足（人員不足）であることも切実なことなので、様々な福祉事業の方が講師となって高校へ講義をしたり等。
もっと法的によくなると思う。

職場体験やボランティアの受け容れを充実させる。
話だけでなく、実際に現場を見て、ふれることが必要だと思う。
実際になにか体験して、利用者と交流をもつことで、より関心をもてると思います。
ボランティア等の機会を作る。
施設研修など短期間ではなく、長期にわたり研修し、顔なじみになれるような機会を作り、共有できるような環境作りなど。
地域住民との関わりを持ち、福祉の世界を知ってもらうこと。
・福祉職場は低賃金で、過重労働というイメージをなくす（一般企業並にもらえるような所得制度の確率）
・給料を上げること。
・「福祉 = 高齢者の介護 = 大変そう」というイメージを持っている方がたくさんいるそう…。そのイメージを払拭すること。
・業務を実際に体験してもらう。・福祉分野でも様々なことが出来ることを示す。
現場体験をどんどん取り組んだり、お年寄りのもとと身近に接したり、お話する場があるとよいと思います。
福祉施設で働く現場の声を聞き、理想と現実のギャップが少しでもなくなれば良いと思います。
直接、利用者とふれあう機会を作る。
体験学習などを病院や福祉施設で行い、積極的に学生達がこの仕事にかかわるように取り組む。
地域で福祉の魅力を伝えていく。24h テレビのようにメディアを通して、福祉のあたたかさや感動をひろめる。
・ボランティア ・募金活動 ・福祉を取り上げた授業
実弟が介護職をやっていますが、労働時間、内容と給与が見合わないと言っています。上司とのウマが合わないのもあるのですが、給与のこともあり、来年には辞めるそうです。介護 = 給料が安いイメージそのままでは、難しいのではないのでしょうか。
興味関心をもつには、まず、こういう施設がある。こういう人（職を持っている人、認知症の老人など）がいるという事を知らなくては何も始まらないので、福祉科の高校だけでなく、全ての高校で、授業で取り入れたら良いと思う。福祉というくりだけではなく、社会、生活、道徳的な要素もあると思う。
高校生では遅すぎると思います。幼少期や小学生のうちから、高齢者、障害者、その他様々な方々と接していないと難しいと感じます。高校生になってから、福祉に興味関心を持つことは、良いことだけでも、現実を小さな頃からしっかり受け止め考えられるようになってくれればいいですね。（取り組み）教育実習（2週間くらいの長期）やボランティア活動を積極的にできるような仕組み（受け入れる）。様々な勉強会、講習会（学校、地域主催授業の一環として取り入れる）
人とのふれあいや交流が持てる場面や実習を増やす。
安心して働ける環境（労働条件）。体験を話し、魅力を伝える。
介護職員のスキルアップをすることで、全体的なプロ意識の向上をし、ひとりひとりが介護の魅力について普段から会話しているような状況にする（普段グチや不満が多いので、その状況を変えられるようにする）
とにかくボランティアや職業体験などに参加してもらって、直接ふれ合う事から、興味を持っていただく事が良いと思います。
授業で体験できる機会があれば、良いと思います。福祉=介護だけではなく、障害者（児）施設等、もっと

幅広く紹介すると福祉に対する見方も変わるのではないかと思います。
実習、ボランティアの充実、地域交流を深めていく。
福祉の授業を増やしてみるなど。
・処遇改善 ・実際の現場を見てもらう機会を沢山作る。
学校での講演会を増やす + 現場の職員を講師により身近に感じてもらう。
高齢者や障害のある方と接する機会があればいいと思います。なるべく自然なかたちで。そういった方々も、自分達もみんな「同じ人間なんだ」と感じる事ができたらいいと思います。
福祉=介護のイメージが強い。障害の分野やソーシャルワークの分野での社会的評価の向上が必要。大学の先生にはもっと頑張してほしい…。
支援者より支援される側の方の収入が多いなど、不思議な点が多い。法律でしぼられている部分が必ずしも正しいことではないと思う。
授業やボランティアでの参加
・ボランティアの機会を作る ・給料、労働時間等を見直す。
安定した教育環境の設定、長く働く事ができるような職場作り。
自分の体験からいっても、まず、障害を持っていない方と実際会ったり、話しをしたり、言葉を持たない人とだったら、一緒にいたり、とにかくかかわることが1番だと思います。
地域イベントを開催すること。(福祉事業所が主催となって)
現在の福祉の現状を知る場、障害者と関わる場を設ける。
・高校生を中心とする福祉ボランティアなどを学校ごとに募る。 ・実際に学生に福祉の世界を間近でみてもらう。
福祉の現場で働く人と交流をする機会をつくる。
各学校等でボランティア活動を行い、実際の福祉業務を体験する。
学校全体で、定期的に施設研修を行う。
今、行われているように、インターンシップでの体験を続けたり、良い所をどんどんアピールしていくといいと思う。
職業体験、実習生として、実際に福祉の現場に足を踏み入れてもらい、興味を持ってもらう。
・利用者がすこやかに生きること、あたりまえに社会で生きることなどを知ること、そして、昔の人権のない時代がふたたびこないよう、よく歴史を学ぶことで、人材は増えると思います。(こんなにひどいことがあったとか、こんなにいいことがあったとか…)
実際の福祉の現場を知られるような取り組み(職場体験学習など)
・給与面 ・ボランティアなどでて頂き、福祉の仕事がどうゆう仕事をしているか、知って頂く。
福祉の社会を支える職員へ給与面で今以上のサポートがあると良い。働きやすい職場があるというのは、とても恵まれているし、幸せなことと思っています。
退屈しない説明会、ビデオなどを作ったら良いと思います。
直接関わる機会をつくること。
国が責任を持って、給与面を公務員の水準への引き上げが必須。これは福祉の分野の給与のバラつきも離職に拍車をかけているので、全面的な改善が絶対必要。



実際に目で感じ、体で触れて見ること、福祉に関わる新聞や本を読んで頂くこと。
福祉を特別な仕事とイメージされている人が多いと思います。それは、職員等が、社会であまり他者と交わらないからだだと思います。その辺が解消されれば、より福祉が身近に感じられると思う。
現場を実際に感じる実際に見て頂きたい（授業の一部として）。ボランティアを気軽に受け入れられる現場の環境づくり。
給与を上げるしかない。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いている人の話を聞いてもらう（大変なことや、嬉しかったことなど体験談を中心に）</li> <li>・自分達が、資格をとる時などにやった、技術の習得など、実際に体験してもらう。</li> </ul>
福祉職にはいろいろあるが、それぞれの職務の内容、施設の違いなどわかりづらいため、それを説明できる機会を作れると良いと思う。
高齢者と関わる機会を持つ。
安く資格がとれる様、国がサポート。
皆、老人介護を好きになってくれると思う。でも、職場の人間関係が悪いから、辞めていくのだと思う。私も何回も辞めたいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の見学（職業紹介の一環として）</li> <li>・別な仕事に取り組んでから、福祉の世界に入るのも良いと思う。そのため、常時訓練ができ、技術をつけるようにできたら良いのではないか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験を通じて、福祉の世界を知って頂く。</li> <li>・その高校出身の介護職員による体験談。 ・介護ドラマ（有名な俳優さんを出演）の作成。</li> </ul>
福祉の現場との交流をする事が大切だと思います。
今の状態では、到底無理だと思われる。
国がお金を支給しなければ、現場に反映されない。仕事のきっかけは、お金であると思う。経験年数で給料upすれば、生活もして行けると思う。
給与について。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと TV 等で福祉の世界を知ってもらう。 ・給料、地位の向上。 ・介護体験会</li> </ul>
社会科見学のようなもので、福祉施設に行く機会を増やす。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの場を増やす等、直接「福祉」にふれ合う機会を作る。</li> </ul>
実際に交流を行う。どのような体制なのかを知る。
児童、職員、高齢者を身近な存在として考えられるよう、ボランティア、体験学習、実際に触れ合っ、互いに理解を深められる環境を提供することが必要だと考えます。
今の高校生は、福祉の世界に興味を持つとはあまり思えないと思う。私が高校生の時も、周りに福祉に興味を持つ人が少なかったように思える。福祉の世界は、給料が安い、汚い、大変だからと言う人が多いと思うので、実際に現場の職員が学生と交流する機会を持って、現場の現状を伝えるような取り組みがあると良いと思います。
若い学生のうちから、どんどん利用者さんたちと交流ができる場を学校等が中心となって行ったり、メディア等でももっともっと取り上げてもらいたい。一番は、国がもっと福祉について、真剣に考えて欲しいです。
やはり給料が一番大事だと思う。看護師との差が大きすぎる。

現場を見てもらいたい。きっと何か得るものがあるはず…。
福祉の仕事をもっと理解してもらう事が大切だと思います。福祉の仕事の嫌な所も、良い所もわかりやすく説明し、辛いだけでなく、楽しい事もわかってもらうことが必要だと思います。
福祉の現場を見る事が一番大切だと思います(最低3日)。直接、高齢の方と接する事で、一人一人感じる事も違うと思いますが、現場を見て、自分だったらどうしてほしいか…。自分が職員だったら、どういうケアをするかと言う事をまず考えて頂きたいです。
見学やメディアなど、高齢者と関わる機会を授業として取り入れて欲しい。福祉に携わる人たちが講演をしたり、映画鑑賞でも良いのでは。
経営者側からの積極的アピールや事業所からの発信は大切だと思いますが、教育現場の従事者による自発的な知識の習得も必要だと思います。
校内等でボランティアやアルバイトなどの案内やポスターを見かけることがあると思うので、そういったものを提示すれば良いのではないかな。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見学実習の機会を設ける。</li> <li>2. 福祉従事者からのレクチャー(管理者よりも現場スタッフが良い)。</li> <li>3. 教職員が福祉の世界を学ぶ機会。</li> </ol>
ただ、興味を持つだけでは、つまらない仕事だと思います。まずは、お年寄りの方が大好きだと思わないと、心ない介護になってしまいます。そのため、どのような取り組みが必要かは、申し訳ありませんが、思いつきません。力不足で申し訳ありません。
・認知症サポート養成 ・ボランティア ・介護新聞等の情報提供
施設見学して、実際見てもらったり、体験出来るような場を設ける。
ボランティアの機会を増やす。
1人でも多くの年配者と関わられるような催しを学校、地域で考え、実行してほしい。
知ってもらうには、呼びかけが必要と思うし、認知症についてもっと知ってもらうために、ボランティアで体験してもらう。
福祉の体験を増やせばいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験やボランティアなどで直接、高齢者とふれあう。</li> <li>・日本の福祉だけでなく、世界の福祉を知ってもらう。または、比較する。</li> </ul>
もっと福祉の現場の事をリアルに伝えてほしい。メリット、デメリットもしっかり伝え、福祉の世界にふれる機会を作ったら良いと思います。
職員が変わるべき。
福祉はボランティアでは無く、職員にも生活やモチベーション等、色々な環境があるので、まずはヨーロッパの様に福祉をきちんと運営していける環境整備が必要である。働き手がいなくなれば、サービスの質の向上は一向に進まず、福祉は崩壊すると思う。福祉産業は、きちんとしたサービス業であり、生活をしていなければならない。そのことを国全体、又、国民の人々が理解していかなければならない。
どのような仕事があるか等の知識や職場体験等。
上記のような理由で、この仕事にやりがいを感じているが、まずは、低賃金という現状を改善しなければ、次のしっかりとした担い手が出て来ないと思う。生活を支えていけるだけの収入を得られるならば、この業界を選

<p>択肢に入れる若者もいるはず。</p>
<p>仕事内容に見合う賃金アップ</p>
<p>仕事内容に見合う給料 up</p>
<p>待遇を良くする事。</p>
<p>高校生の施設見学やボランティアなどで、実際にお年寄りとふれあって少しでも興味をもってもらう。介護は悪いイメージばかりではないということを直接話し（自分の経験）、関心をもってもらえるように考えています。</p>
<p>情報提供をし、交流会などを聞き、関わりを持てる場をひらく等。</p>
<p>人と人との関わり大切さを実感できるような講義、または実践が良いのではと思います。</p>
<p>高校生、大学の授業の中で、もっと福祉や社会の中の仕事を教える機会があつていいと思う。</p>
<p>自分たちのことを理解すること→相手の立場を理解すること。ボランティアや実習など、利用者の方々と接する機会を設ける。労働条件の改善、安心して仕事し、生活できるための基盤づくり。</p>
<p>ボランティア活動など、小学生から老人や障害者に関わる体験を取り組んでいけたら、自然と大人になっても栈しれると思います。福祉関係の仕事にたずさわっている方は、じいちゃん、ばあちゃんとの関わりが多いと思われれます。</p>
<p>福祉の施設内の業務見学をする機会を設ける。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい感覚が介護にも必要になってくると思われます。十代の方々の自由な発想の必要性をアピールして行くのも良いかと思われます。</li> <li>・部活で介護現場の訪問などしてみる。</li> <li>・現場でのボランティア ・職場体験</li> </ul>
<p>給与を高くすること。</p>
<p>お年寄りや子ども達と触れ合うことのできる機会が、授業であれば良いと思います。</p>
<p>授業の一部にしてみれば?どうですか。</p>
<p>施設見学等をしてもらい、障害者の方達への偏見のようなものを少しずつなくしていけたらいいのでは。</p>
<p>学校側から積極的に施設へボランティアをすすめるべき。</p>
<p>しっかりした受け皿を構築して頂きたい。賃金も低く、不安定であり、安定した生活ができるように、賃金体制の確立が大事と思う。</p>
<p>もっと社会からの評価の高い職種と言われるようになってほしい。</p>
<p>体験してみるのが何よりいいと思う!!</p>
<p>介護職には、看護協会のようなバックアップをしてくれる組織が無い。将来や、もしもの時や、また、労働条件などを解決、相談できる大きな組織等、守ってくれるものがあると思えば、少しは違うのではないでしょうか。</p>
<p>学校などで、もっと福祉について勉強していける様な科目を作ってみてはどうかと思います。</p>
<p>小、中、高と学生の頃から施設見学や体験ボランティアを行える場を設け、又、地域のお年寄りと交流をもっともてるよう、学校へお誘いし、学校見学の中で、子どもたちとお年寄りたちが、今以上に密に関わりが持てるよう環境を整えるのも一つの策だと思います。子どもたち個人個人に興味を委ねるのではなく、もっと組織の中で彼らにはたらきかける事も必要かと思っています。</p>

ホーム等たくさん関わられる機会を作り、体験して頂くことで、興味が持てると思います。
・学校が福祉施設と連携して、もっと職場研修や体験、訪問の機会を設けていき、現場の雰囲気や業務内容を知ってもらう ・資格をもっと取得しやすい環境改善（単位見直し等） ・賃金、収入の見直し（現場もだいぶ処遇改善されるようになってきているが、それでも、低賃金というイメージはあまり変わっていないように思う）
・様々な体験をする機会の確保 ・雇用が安心、充実する為の待遇、条件の安定
現場を見学する等の機会を設ける。
実際に高齢者や障害者の方々と触れ合う機会を作る。ボランティアなどでは、自主参加になってしまうため、興味のない方は参加しないと思う。そこで興味を持ってもらうために、実際に関わる機会を一度でもいいので設けるといいと思います。（例えば教科の中に取り入れるなど）
体験できる機会を増やす。
他人のためというより、自分も含めた地域が良くなるようにという思い。事業所と福祉系大学、専門学校と一緒に、人材育成の機会を作る。
賃金アップ（介護職の）
実際に触れ合える場。
福祉の重要性和関わる人間の生活の安定が反比例している。行政より社会が福祉に関わる人間の将来を真剣に考えて欲しい。
介護=つらいは間違っている。自分も高校時代、介護なんて仕事は出来ないと決めつけていた。
学校を訪問し、説明会や体験の場を提供していく。
全員に興味を持たせる必要はないと思う。身近な問題から「自分が将来こういう立場になったらどうしますか」という自分に置き換え、考える機会があったらいいと思う。親を介護するようになったら、子どもが障害を持って産まれてきたら、おとなりさんが病気でたおれたら…さまざまなシチュエーションで考えてみるのが良いのでは。
GH や施設などで、実際に関わりを持って利用者ともふれあいをもつことが良いと思います。あと、研修会などにも、どんどん参加してもらおうのが良いと思います。
人間関係が希薄になっている中で、人と人が支え合い、交流していくことの素晴らしさを伝えていくことが大切だと思う。色々な世代が交流できるイベントや、活動の場を作れたらと思う。
土、日を利用し、高校生にボランティア等に来てもらったりする。
積極的にボランティア活動に参加してもらう。
・仕事と給与の見合った内容 ・祖父母との交流 ・福祉ボランティア活動 ・自分の将来、日本の将来 まずは、老いるとはどんな事なのかをきちんと知るべき。日本社会は若い事が良いとされているので、そこからの意識改善が必要。老いを楽しめる事を教えてあげるべき。
給与面の向上
介護職についての話をしたり、実技をしてもらうと良いと思う。
重労働であることは変わらない為、給与、休みの充実が必要。誰でも出来るわけではないという、良いイメージが必要。
実際に高齢者や障害者の方々と交流する機会があれば良いと思います。自分が学生の時に、施設訪問などで交流する機会があり、福祉に関心を持ちました。

<p>・ボランティアの参加 ・各高校の近くの施設を見学</p>
<p>義務教育の時から、健常者の集団だけではなく、様々な障害をかかえている同世代の子どもたちと、ごく自然に触れ合う事が必要だと思う。子どもの頃から、自然にどの様な支援が必要なのか、体で体験するのが一番良いと思う。社会人になってから、突然「福祉」に関わると、何かとても特別のものの様な感じを受け、障害者が何か特殊な人間の様にとらえてしまうところが大きい。大人がいじめや、差別、偏見をもつから、子どもがマネをしてしまう。福祉を特別なものにせず、子どもの頃からの触れ合いがあれば良いと思う。</p>
<p>実習やボランティア活動をたくさん行い、参加して頂き、大変な中でも大きな喜びがたくさんあることを伝えるといいと感じます。</p>
<p>介護員を使い捨てるような仕組みを改善し（国も経営者も）、権利意識の強い利用者の考えを改めるべきだと思います。尊い命、生きる意欲を支援している「介護」の仕事を担当している人を、もっと大切に根源から整備する。</p>
<p>暗い話題が多い中で、金銭面や人間関係（連携）が良いイメージを見いだすことが必要だと思う。</p>
<p>やはり、体験してみないとわからない部分も大きいので、授業内容に取り入れてもらい、お年寄りに触れ合い、介護の仕事を手で覚える事が必要だと思います。又、スキルアップを目指し、給料の面を良くしなければならぬと思います。</p>
<p>普段、高齢者と関わる機会がないので、ボランティア活動（独居宅・特養）</p>
<p>ボランティア等を募集して、福祉の世界を知ってもらう。</p>
<p>現在、福祉に従事している人の「アピールする力」が足りないと思います。口下手すぎますよね。</p>
<p>様々なボランティア活動に参加することや、福祉の仕事に関する授業を取り組んでみてはどうでしょうか。</p>
<p>超福祉国家の生活スタイルや社会保障を知る機会があればいいと思う。</p>
<p>給料アップ、地位向上、楽しく仕事が行える職場環境の整備。イメージアップ。</p>
<p>介護を看護師が病院で働いているような専門職（有資格以上はできないような）にし、給与をあげ、この仕事でもしっかり食べていけるというようにしなくては、若い人材がこの先、増える事はないと思われる。いくら、興味や関心を持ってもらっても、自分が生活していく事のできない仕事では、その職にはつかないのではないだろうか考える。</p>
<p>高校のボランティアを募集していき、参加して頂く。又は、現場の職員が介護の仕事内容や魅力を報告、話をしに行くなど、介護という仕事を中身まで理解してもらう。</p>
<p>「福祉」と聞くと、どうしても固い、きびしい、大変というイメージを持ってしまいます。ボランティアという言葉もなかなか入りにくいイメージがあります。まず、気軽に参加できる家族での参加、地域での催しなどに参加、気付けば「これが福祉か…」と思えるように取り組んで行くのが良いと思います。若い人が参加できる福祉イベントが良いのかな？</p>
<p>電子的コミュニケーションツールが発達し、同年代人との接点がすべて思っている高校生には、もっと課外授業をして、福祉と関わるボランティア等の接点を多く機会を作ってほしい。</p>
<p>ボランティアを募集する。介護員たちが、仕事をしている姿をみってもらう。</p>
<p>現場で働く人達が、全て正職員となれるように、賃金の安定や施設・現場へおける金額が増えて、安心して働けるように、介護保険法を見直して欲しいです。</p>
<p>外部との積極的な交流や、閉鎖的な部分を開放し、接触する機会を多くしていくことが必要と考えます。</p>
<p>・施設見学 ・体験実習</p>

<p>・福祉職は、実際たいへんなことがいっぱいありますが、メディアなど、その大変さだけではなく、良い面も放送してもらえたらいいのに…と思います。</p>
<p>わからない</p>
<p>もっと授業の一環として、または、ボランティアなどで、福祉施設での体験学習だったり、介護保険制度など学んで頂けると、より興味をもってもらえるのでは?と思います。</p>
<p>授業の中で施設へ出向く時間を作り、交流を深めるといいと思う。</p>
<p>先生達が、介護現場の状況を理解する。現場経験者を学校で働けるような体制作り、学生の体験訪問ができる施設の基盤作りに力を入れる。介護職員と学生の交流の場を増やす。学校側も授業の一環で、施設体験学習を取り入れていく。学生の多くは、福祉に興味を持っているが、テレビや新聞で悪いイメージの内容が、日々出ているので、進んで何かしたいとならないのが、最近の状況だと思います。人が少ない、つらい所が先に言われ、喜びや、やりがいは伝えられていません。学校、先生も福祉への進学をすすめないようにしています。</p>
<p>「福祉職」と聞くと、よく分からない、難しそう、抵抗があるというイメージを抱かれがちな気がします。汚いと思う人もいるかも…。本当に、基本的なところで、関わる機会を作るという事が一番のきっかけになるのではと感じます。壁を一步越えられる機会が必要だと考えます。</p>
<p>私自身も高校時代に、友人に誘われてボランティア活動に参加したのがきっかけで、福祉の専門学校に入り、現在に至っています。家族や身近な人の中に、支援を必要とする人が居ない限りは、福祉の世界と関わる機会がほとんどないと思うので、まずは機会の設定。知識も大事ですが、感性が最も大事な職種だと思うので、スタートするきっかけや、最初の印象が鍵になるのではないかと思います。</p>
<p>学校内での体験学習等（視覚、聴覚体験等）</p>
<p>授業に「福祉」という授業を入れる。ボランティアを強制させる（学校側）。</p>
<p>福祉施設や地域の高齢者と関わる時間を作る（高校生にボランティアや見学に来てもらったり、福祉施設の入居者様と関わる（話す）時間をもらったり、地域のお祭り等に高校生と一緒に参加し、職員と入居者の様子を見てもらう事で、少しでも興味を持ってもらう）。可能性があれば、施設側から地域の学校行事を見学する機会があればよいのではないかと思います。</p>
<p>利用者との出会いの場を作る。サービス状況を学生にも体験して頂く。</p>
<p>福祉課の増設。メディアへの露出。賃金体系や条件など、良くなれば自然と関心が生まれる。</p>
<p>高校から福祉学部を創設する。大学4年で福祉を勉強し、知るには時間が足りなすぎる。興味がない人も、中、高から勉強として知識を吸収できれば、国語、数学…のように、あたり前のように身につけていくのでは?</p>
<p>実際に福祉施設等への実習時間の確立 * 高齢者だけではなく、障害者と接することも必要</p>
<p>インターシップの実施及び受け入れ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアで色々な人と交流を深め、興味を持てる環境を作る、提供する。</li> <li>・授業の中で、もっと福祉について触れる。</li> </ul>
<p>高齢者や年代の上の人達と交流し、楽しいと思ってもらう事。</p>
<p>体験。</p>
<p>高校側と協力体制を結び、定期的に講習会を開催させてもらう。</p>
<p>実際に福祉の現場を見学、体験すると良いと思う。そのような機会が今は少ない。</p>

介護という仕事は特別なことではない。つらいばかりじゃなく、おもしろさを知ってほしい。まずは、高齢者、認知症について知る機会があったらいい。若者と高齢者が交流できる場をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者体験（目が見にくい状況だったり、重りをつけて外に出てもらう等）</li> <li>・授業の一環に施設実習を取り入れる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生を対象とした、シンポジウム等の催しを開く事。</li> <li>・高校生を対象とした職場見学、実習、ボランティア等。</li> </ul>
ボランティアとかでなくても良いので、もっと積極的に施設に行けるような取り組みをしていってはどうでしょうか。職業体験とかでも良いですし、まずは福祉に持っているような重いイメージを変えられるような事からしていけばと思います。
福祉の仕事への関心等は実体験をしてみて、はじめて興味を持つことが出来ると思うので、気軽に体験でき、身近に接する事が出来る様に、地域との関わりを大事にしていく事が良いと思います。
学校の行事として、ボランティアをする日をもうける。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉と聞いたり、文章で学ぶ、知る事はもちろん、実際の現場での関わりや、今の問題点、リアルな情報が必要だと思う。</li> <li>・一緒に楽しめるお祭り等、地域交流を兼ねて参加しながら、福祉の世界を知ってもらう。</li> <li>・高校生になる前から（保育園や小学校）福祉の世界と関わる機会を持つ。</li> </ul>
職場体験では、いきなり現実をつきつけられ理解が難しいと思われれます。重くとらえずに、入所施設だと、なかなか施設外の人との関わりをもつ機会が少ないので、交流会のようなものを設定し、そこで利用者さんもが学生さんも感動できる体験ができると、心に残るかな…。ボランティアと言われると、抵抗がある人も多いかもしれません。
賃金や雇用条件を他業界並にしないといけないと思う。
高齢者との交流の場が増える様な取り組み
実際の体験が1番だと思います。福祉サービスを提供する側の体験だけでなく、自ら「福祉サービスを受ける側の立場や状況」を疑似体験する事で、初めて「福祉サービスの必要性」を感じてもらえるのでは？ その中で、自分がされて嬉しかった事、嫌だった事を感じた時に、自分に出来る事を考えてほしいという願いを込めて…。
実際に現場をみてる。
小さいうちから福祉と関わる時間を作り、人と関わる楽しさ、大切さ、難しさを体験する機会を作る。
障害者を持つ人と関わる機会をもうける（ボランティアなど）。施設訪問や見学を行うと、利用者の生活や活動の様子を目の当たりにすると、興味を持つ人も増えていくと思います。
自己学習すると良いと思う。ボランティア参加するも良いと思う。
ボランティアの参加募集
交流を増やす（障害児者・老人）
ボランティア活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、当事者との交流</li> <li>・職場体験</li> </ul>
給料アップ。事務仕事は、介護士がしないので専門科する。又、システム化を図る。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃金のアップ</li> <li>・福祉の必要性、魅力のアピール等</li> </ul>

・給与処遇面の改善 ・クリーンな環境作り
給料がいい。
やりたい人はやる。ただ、給与条件が他の一般企業に比べ安く、家庭を持つ事に不安を覚える。福祉全般の給与条件の見直しが必要かと思う。
ボランティアや実習として現場に積極的に参加すること。
職場をはじめ、実際の場面を見学したり、体験してもらうこと。
利用者との交流の場（楽しいもの）。行事のボランティアに来てほしい。
ボランティア活動への参加を促す。学校授業の一環として、福祉の授業を取り入れるか、体験する機会をもってもらおう。
取り組みは別に必要ないと思います。高校生達が自分で考えること。
学校で勉強する内容に、高齢者だけではなく、障害を持った人のこととか詳しく勉強したらいいと思う。
給料が高くなっていく事を伝える。
一番の方法は給与面の充実だと思います。高校の先生は、福祉は給料が安いという理由で、生徒には勧めません。そして、メディアがもっと福祉に関して注目してほしいです。まず、現状を知らない人がほとんどだと思います。
給与が高くなる。
高校等へ行き、実際に福祉の仕事の話（話す側の体験談）を話す。
給料のアップ
給料の大幅アップ。障害者の人権を擁護しすぎた為、逆に現場の職員の人権がなくなっている。もっとバランス良くしないと、心がくだけちゃう。
働いている人の話を聞く。
地域の活動（夏祭り、ゴミ拾い）への積極的な参加
キツイ・キタナイ・安いイメージを取り除く。
現場を知ってもらえないと思うので、体験実習を実施する。
・賃金アップ ・福祉の仕事は、聞くのと見るのではギャップがあるので、多くの学生に実習してもらいたいです。
・彼らが親になった時、自分の子どもの前で仕事がつらい等、ぐちを言われたい事を全員がすれば、次の子どもたちは、元気になるはず。 ・次の次の世代を見据えて対応すべき。
福祉職をみんな公務員にすると、人が集まると思う。
学生時代から、現場へのボランティアなどの機会を増やす。
・生活出来る給与にする ・専門性のある仕事にする（セラピスト等は人気がある）
きつい、厳しい面だけでなく、その結果、利用者さんの笑顔や感謝にふれる機会があるといいのでは。
この世界を知ってもらうことが大事だと思います。職場体験や講演会などを、学校をまきこんで行っていく事も一法だと思います。
高齢者や障害者との交流を沢山もつ。
体験実習など、関わる機会を作る。
高校生が色々な事で悩んでいると思いますが、それよりもっと悩んでいた、自分の好きな事が出来ない人が



いて、自分を傷つけたりする人が沢山いる事を、少しでも知ってもらい、ありのままの自分を受け入れ、自分自身を持って欲しいと思います。
対象者に実際に会ったり、直接ふれあう体験が必要だと思う。今は、自分で情報を得られる（ネット等）が、それが本当かどうかは、高校生には分からないと思う。給与についても提示し、他の職種と比べられる方が、後の離職は減ると思う。
私は、高校生の時に養護学校の児童と、ボランティアを通じて知り合い、親御さんと話をする機会もあり、障害を持つ子供と関わる仕事に就きたいと思いました。保守的な学生が多いので、外で活動する場を与えてあげると、良いきっかけになるのでは、と思います。
障害特性のある人と接する機会を作る事が一番でしょうね。学校で福祉に対する授業をする事で、興味の湧く人は出てくるのではないかと思います。カリキュラム上、接さなければならないとか、単位の為とかだと、現場の支援者も利用者も迷惑なので、止めてほしいです。
もっとオープンに。給料 up。じゅうじつ
実際に触れてもらう、接してもらう機会が増えたら良いと思います。自分達と近い年代の人に実体験を話してもらおう等、抱いているイメージと何かかわったら良いなーと思います。
施設がどのような場で、どのような能力が必要なのか、明確に伝えられる機会を増やすと良いと思う。
体験する場、講師として学校に学ぶ機会が必要。
先ず「知らせる」活動が必要ではないかと思います。将来を考えはじめる高2 夏頃（自分の場合）に「17歳のハローワーク～福祉って何だ!？」を開催。（若い人は、人見知りが多いので、そこにどう配慮するかがカギ）高齢者、障害などを幅広い分野の「仕事内容、給料、やりがい」を体験をまじえて知らせていく。
核家族化が進む現代において、祖父母やそれ以上の世代の人達と接する機会が減っていると思われます。今の日本をつくるために、力を尽くしてくれた人達から学べる事が多くあると思いますので、それらをスクリーンで流すなどして、学校の授業で紹介することが良いのではないかと思います。
様々な事に挑戦して、様々な人と関わっていき事が大切だという事をわかって頂けるようにしてほしいです。
「知ること」が重要ではないでしょうか。一通りの知識だけではなく、体験することも必要かと。
良いことばり話すだけではなく、嫌なこと、悪いことも正直に話すこと。
学校、事業所、地域が連携して、楽しさを具体的に伝えるような場の設定。
・メンタルケアの充実 ・給与面の改善 ・人員の増加
施設見学を行い、実際に体験してみる。
・将来的に、介護の仕事をずっと続けていける様に、給与、待遇等を改善する。 ・高齢者が増加していく中で、次世代の方達に介護という職種、必要性を知ってもらう機会を設ける。
高給で働ける仕組み作り。
どのような福祉に関しても、3K（キツイ・キタナイ・クサイ）のイメージ強い。もっと知名度を高めると、福祉の世界での視野が広がり、若者の興味の幅が増えると感じる。認知度を高めることが必要。福祉=介護の認識が強い。
・「嵐」が出演するドラマ（映画）を作る。 ・利用者に関わる時間を少しでも長く作る。大勢と大勢ではなく、個と個の方が望ましいと思います。
給与を上げる。

授業内での福祉実習などの時間を作り、実際にお年寄りと交流してみる。
個々の考え方もあるかと思いますが、何事も興味を持つには、目で見て、耳で聞くだけでは一瞬にしかすぎないので、やってみたいと思うようにしていく事が大切なのでは?と思います。見て聞いてだけではなく、身体で経験した事については、忘れないと思うので。
学校の授業に取り入れる。
高齢者や障害を持った人達との交流を増やしたり、話しが出来る場が持てると良いと思います。
学校での施設訪問や、実習などを取り入れたほうが良いと思います。
ボランティア活動
ボランティアの参加。
高齢者と接する機会が年々少なくなっている様に思います。老人ホーム等、福祉施設を訪問、体験する機会ももちろんですが、障害者とのふれあいや知識を勉強できる場を持てたら良いと思います。
現場での実習ボランティア活動
・テレビで宣伝する（介護のテレビや映画、感動する番組等。CM等）。 ・給料を良くする
見合った給与にするなど。
積極的なボランティア活動。福祉の若年層への知名度 up
一般企業並の給与収入が確保できれば、それだけでいいと思います。現場はきれいなものばかりではないですが、福祉の魅力は充分世間に伝わっていると思います。
施設などは見学すること、実際に現場で働くことは大きな違いがあります。そのギャップに耐えられず、辞める人もいます。福祉の現場のことをたくさん知ってもらうために、障害者や高齢者に関して、情報を提供したり、気軽に参加できそうなボランティアなどを考えるなど、取り組みが必要だと思います。また、勤務条件の改善なども重要だと思います。
ボランティアはいいと思うが、1度や2度ではきっかけや考えがまとまらないと思うので、週末、土、日等これる範囲で、長期的で様々な福祉の世界を見たいと思います。
自分らしさが活かされるような仕事は、少々給料が安くとも人を引きつけると思う。ケアワーカー自体の待遇改善もさることながら、福祉の仕事場自体が、その人らしさを尊重されるようなものであれば、人は来ると思う。
学校を通じて、福祉施設の見学やボランティア等の募集をする事で、少しでも知ってもらう事が良いと思います。あと、高校生と限定していますが、中学生ぐらいから行った方が進路を選ぶ際でも良いと思います。
当たり前になっている環境が幼い頃からあれば、特別な事だとは感じないと思う。高校生に突然、半強制的に体験をさせても、ほとんどの人には意味はない。逆に偏った見方、考え方をもってしまうだけだと思う。福祉を特化するのではなく、多くのものを体験する機会をつくったり、様々な選択肢から自ら選ばないと、何の意味もないと考える。
職場実習の機会を設ける事で、私が在学していた中学校では実際に障害者施設への実習がありました。今、実際に働いている人が、やりがいを持って働ける環境整備がしっかり出来れば、経験者から高校生に伝わる機会があると思います。
私もそうでしたが、若い子達（だけとは限りませんが…）は「福祉」と聞くと、お年寄りや重度障害者の介護やボランティアをするイメージがあると思います。でも、実際には、福祉といえど様々な業種や事業所があるのだという事を周知すべきだと思います。昔と比べ、福祉の世界も変わってきているんだ。人々の持っている福

社という概念を少し変えているんだという取り組みがあっても良いのではと思います。
交流
福祉の仕事をしている人々が、生き活きと働いている姿を示す事が出来たら…。しんどい事や、楽しい事を重ねて生きながら…。すみません、アイデアではないですね…。
今のままで、続けられる人がいるわけない。待遇はもちろん、環境も替えなければいけないと思うし、職員のケアも必要だと思う。だから、離職者が多いと思うし、高校生だってばかじゃないんだから、そう簡単には興味なんてもたない。根本的に福祉を全て変えないといけないと思う。
地域の様々な年代の人との交流や協力活動。学校の傍らにコミュニティーの場（高齢者も障害のある人も保育園も）を置き、日常的に助け合う機会をつくる。近くにあれば、自然と接する機会は増える。高校生の力を借りる（活かす）という意識で、福祉従事者、地域、地域の学校の三者が一对となった取り組み。
実際に障害者（児）とかかわる機会、福祉の仕事に携わっている人からの現場の話
小、中、高と授業の一環として福祉と触れ合う機会があれば…。
高校からではなく、幼少期から関わる機会を増やす。初めは知識としてではなく、実体験としていけるようにする。
幼少の頃から、直接障害のある人と触れ合う機会が増えること。勉強としてではなく、遊びの一環で知る機会があるとなお良い。
高校などに行って、福祉の仕事の楽しさを伝える。
ボランティアや実習等は今後も継続する必要があるけれど、行った施設の環境がきちんとしていないと興味関心を持ってくれないと思います。第一印象がとても重要だと思うので、無理にボランティアや実習を受け入れてしまわないよう配慮が必要だと思います。
介護のありのままの事を伝える→理想と現実のギャップをなくす。
・給与を上げる ・福祉の心と未来の探訪を明確にする ・老人介護の分野だけでなく、知的障害の分野に関する資格を作り、個人のスキルアップを図る機会を作る
不安やつらさを与えないような体制をつくる。
施設を見て貰い、利用者に関わってもらうことが大切であると思う。ただ見るだけの施設見学より、実際に利用者と活動を共にしたりする方が、より知的障害分野を知る機会となると思う。利用者に関わらないで、イメージを作るより、実際に関わってから決めてほしいと思う。言葉や画面を通すだけではわからない。（実際に自分自身が実習を通して、もっと関わってみたいと感じるようになった）
地域のお年寄りとの交流や施設などの行事に参加してもらったりする事により、少しでも興味を持ってくれるのでは？（交流する機会があっても、何を話したら良いかわからないと思うので、一緒に何かを作ったり等しながら、信頼関係を少しずつ作っていく）
実習等に沢山取り組むと良い。
施設への訪問や公演会の実施など。福祉に触れられる機会を作る。
施設での清掃の手伝いのボランティア。給食サービスのボランティア。施設、学園等のおもつりごとのボランティア。利用者様、入所者様との関わりで、福祉の世界に興味関心を持つきっかけになると思います。
介護=大変、疲れるイメージ強いと思う。実際、疲れるが、以外に楽しさアピールする。
体験学習。お年寄りとの交流

福祉の現場を知ってもらう為にも、授業等のカリキュラムに取り入れ、福祉施設訪問をとり入れると良いと思います。
全ての高校に年1度は福祉への見学やボランティアの機会を設け、少しでも福祉に接することのできる環境を用意する。そうすれば、一人でも福祉を目指す方がいると思います。
対人援助の専門職であるというような内容を伝えていくべき。「人の役に立つ」とか「笑顔が支えになります」みたいなものが、全面にでてくる気がするので、それでは福祉のイメージが変わらないと思う。
支援する側の人達とその家族が、ちゃんと人生をおくれる様な取り組み。それを社会がやっていければ。
給与的にも条件をよくしたりと、まず国の考え方や方針を変える。福祉の仕事はやってみないとわからないから、体験したり、交流する機会を多くする。
優しい、親切=福祉職という概念での社会風潮をやめ、他業種同様の仕事スタイルのようにしていかないと、就職後とのギャップ、バーンアウトしていく人が多い。
当事者の声（思い）を生でできる場、どういうところに応援があれば暮らしていけるのか、考えていく、伝えていく取り組み。
当事者との交流
実際に現場へ行く。体験する。
高校生（福祉に興味のある）を対象に、実際に子どもたちと関わることのできる様な、研修（行事）を設ける。